

第3回県立高等学校の在り方検討委員会 次第

日時：令和6年1月16日（火） 9:30～12:00

場所：高知県人権啓発センター 6階 ホール

1 開会

(1) 教育長挨拶

2 議事

- ・学校の適正規模と適切配置について
- ・課程・学科の適切配置について
- ・学校の魅力化・特色化について

3 閉会

(1) 教育次長挨拶

(2) 諸連絡

第3回 県立高等学校の在り方検討委員会資料 目次

資料1 第2回県立高等学校の在り方検討委員会のご意見等の概要

資料2 第3回県立高等学校の在り方検討委員会 検討資料

資料2-1 高知県高等学校配置図（全日制：普通科、総合学科、定時制：昼間部）

資料2-2 高知県高等学校配置図（全日制：産業系専門学科、総合学科：産業系系列）

資料2-3 高知県高等学校配置図（定時制、通信制）

資料2-4 本県と同規模等である県との比較資料（適正規模、最低規模等）

資料2-5 全国の三部制高等学校の設置状況

【参考資料】

参考資料1 次期教育等の振興に関する施策の大綱骨子案

- ・第3期教育等の振興に関する施策の大綱の基本理念と基本目標（案）
- ・次期教育等の振興に関する施策の大綱の施策体系（案）

参考資料2 高知県中山間地域再興ビジョン（素案）

参考資料3 県立高等学校の在り方についてのアンケート

- ・高校卒業後の進路に関するアンケート結果

参考資料4 S T E A M教育について

- ・学校教育におけるS T E A M教育等の教科等横断的な学習の推進

第 2 回県立高等学校の在り方検討委員会のご意見等の概要

○ご意見等

検討ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 国のワーキンググループ中間まとめの考え方は重要であり、この検討委員会でも参考とすべきである。
遠隔授業	<ul style="list-style-type: none"> ICTは、単にコンテンツを配信するだけでなく、他の学校の生徒と切磋琢磨する環境を作れると思う。 各地域で遠隔授業が受けられることは、格差がなくなる点では良いと思う。子ども達と先生の繋がりが大事にされながら進んでいくと良い。
地域みらい留学	<ul style="list-style-type: none"> 地域みらい留学生の発表の場が高知県にもあれば良い。少しずつ高知県をPRしながら、留学生を増やしていただければと思う。 特徴を顕著に表して、ブランディングしていくことが戦略として必要である。部活動等で他にはないものを提供し、地域と一緒にブランディングしていくことが大事である。 1つの方法ではなく、いろいろな形で家族を受け入れる方法があった方が良い。
中山間地域再興ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地域では、様々な部活動をおくことはできないが、生徒を県外から呼ぼうとすると、特徴のある部活動に集中し、地元の生徒は地域から出なければいけないこともあり、地元進学率の目標50%は難しい数字だと思う。地元の中学校と連携しながら、その地域で活性化していく必要がある。 高校は中山間地域再興ビジョンを引っ張っていく立場にならないといけないと思うが、少し受け身に感じる。
魅力化・特色化	<ul style="list-style-type: none"> 高校進学対策を講じるのは受験時ではなく、小中学校を巻き込んだうえで、地域の協力を得て地元を盛り上げる活動に繋げていかないと根付くことはない。魅力化・特色化においては、義務教育も考慮した方が良い。 地域に学校がなくなるのは寂しいことだと思う。地域でのアピールや盛り上げていく部分で、中山間地域の学校には頑張ってもらいたい。 地域をあげて地元の高校を大切に作る雰囲気づくりは大事であり、中学校は高校の魅力を発信しなければいけない。何のために高校に行くのかを含め、高校の特色を明確にアピールしてもらいたい。 高知県もこれから産業を充実させ、人口を増やすと考えると、地域にある高校で日本語の支援や様々な取り組みにて魅力化に繋げていくことも考える必要がある。 高知県が取り組んでいく産業について、県内の子ども達はあまり興味がない。それを目指した子ども達が育ってくれれば良い。 高知県の子どもが少なくなってきた中で、高校の特色をもっと出さないといけない。 大学受験の際に、普通科で広く勉強することがそれほどメリットになっておらず、普通科の議論も非常に重要である。 県立と市町村でうまく連携が進まないところもある。国の中間まとめにて、都道府県と市町村の連携・協力による学校運営についてニーズを聞き取りながらとあるため、やってみたい自治体があればあげていただけたらと思う。 市町村や県、中学校・高校の連携を強化し、地域も地元の学校の良さを認識し、保護者に地元の学校の良さを認識してもらうことが必要である。県教育委員会内でも壁があると感じており、地域の高校と小中学校の連携課題に繋がると思う。 ICTの普及により、小規模であっても教育効果をあげられる可能性は十分にあり、従来とは学校規模の考え方は変わってきて良いと思う。中山間地域の学校は、そのようなところを配慮して考えていけば良い。

第 3 回 県立高等学校の在り方検討委員会 検討資料

項目	検討に当たっての基本的な考え方・視点
県立高等学校について	<p>1 第 3 期教育等の振興に関する施策の大綱及び第 4 期高知県教育振興基本計画の基本理念と基本目標（案）（R5.12 現在） <small>－第 3 回参考資料 1</small></p> <p>（1）基本理念（目指すべき人間像）</p> <p>① 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人</p> <p>② 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人</p> <p>③ 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人</p> <p>※目指す人間像（基本理念）を実現することで、個人が持続的に幸せを感じ、また、地域や社会もよい状態が続く「ウェルビーイング（Well-being）」の実現にもつながる。</p> <p>（2）基本目標</p> <p>① 確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開</p> <p>② 健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着</p> <p>③ 豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進</p> <p>2 生徒数の更なる減少に対応した高等学校の在り方と学びの保障</p> <p>3 高等学校を取り巻く環境の変化への対応</p> <p>（1）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（令和 3 年 1 月中央教育審議会答申） <small>－第 2 回資料 5－3</small></p> <p>①急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力</p> <p>・一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要</p> <p>②2020 年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿</p> <p>・個別最適な学び 指導の個別化と学習の個性化</p> <p>・協働的な学び 個別最適な学びが孤立した学びに陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士、多様な他者と協働する協働的な学びを充実</p> <p>③「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性</p> <p>全ての子供たちの知・徳・体を一体的に育むため、これまで日本型学校教育が果たしてきた、</p> <p>・学習機会と学力の保障</p> <p>・社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障</p> <p>・安全安心な居場所・セーフティネットとしての身体的、精神的な健康の保障</p> <p>を学校教育の本質的な役割として重視し、継承していく</p> <p>④新時代に対応した高等学校教育等の在り方</p> <p>・高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための特色化・魅力化 スクール・ミッション再定義、スクール・ポリシー策定 普通科改革、専門学科改革</p> <p>・定時制・通信制課程における多様な学習ニーズへの対応と質保証</p> <p>・STEAM 教育等の教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成</p> <p>（2）高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ（令和 5 年 8 月中央教育審議会） <small>－第 2 回資料 5－2</small></p> <p>①これからの高等学校の在り方に係る基本的な考え方</p> <p>高校教育の実態は地域・学校により非常に多様な状況。質の確保・向上に向けて、</p> <p>・生徒一人一人の個性や実情に応じて多様な可能性を伸ばす「多様性への対応」</p> <p>・全ての生徒が必要な資質・能力を共通して身に付けられるようにする「共通性の確保」を併せて進めることが必要</p> <p>②少子化が加速する地域における高等学校教育の在り方</p> <p>・同時双方向型の遠隔授業やオンデマンド型の学習を可能とする通信教育の活用、学校間連携の推進</p> <p>・少子化が加速する地域の高校の在り方を考える上では、生徒の教育条件の改善という視点が大切。スクール・ミッションを実現できているかどうかや、生徒のニーズ、希望する進路等も踏まえながらスクール・ポリシーを検討し、当該スクール・ポリシーに対応した教育を提供できるよう条件を整備していくことで、生徒が行きたいと思える学校づくり、特色化・魅力化を進め、生徒の学習意欲を高めていくこと</p> <p>・小規模校は配置教職員数が限られるため、地域との協働や他校との連携を行い、生徒が地域に根差した学校で成長できるよう、コミュニティ・スクールの導入やコーディネーター等の専門的な人材配置など、体制・環境を整備</p> <p>③全日制・定時制・通信制の望ましい在り方</p> <p>・いずれの課程でも、いつでも、どこでも、どのようにでも学ぶことが等しく認められるようにするなど、生徒の状況に応じた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現が必要</p> <p>・全日制・定時制において、多様な生徒が現籍校での学びを継続しながら、多様な学びを実現して卒業できるよう、支援の充実、入学者選抜における適切な評価、履修・修得の柔軟な認定、通信教育の活用、学びの多様化学校の設置や校内教育支援センターの設置促進、学校間連携等の促進、ICT 活用の体制・環境整備などを考えていくことが必要</p> <p>・通信制課程に多様な課題を抱える生徒が多く在籍していることを踏まえ、必要な支援体制を整えるとともに、生徒が人間関係を築きながら、自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働する機会を充実させていくことが重要。公立通信制は生徒数が減少傾向にあるが、特に経済的な面にも課題を抱える生徒にとって重要な教育機関であり、一層の魅力向上・機能強化を図っていく必要</p> <p>（3）高知県中山間地域再興ビジョン（素案）（R5.12 現在 高知県中山間地域再興ビジョン検討委員会）</p> <p>①基本的な考え方 <small>－第 3 回参考資料 2</small></p> <p>・県土の 9 割を占め、県民の 4 割が暮らす中山間地域の再興なくして県勢浮揚はなし得ない</p> <p>・県と市町村が連携し、中山間地域の若者と子どもの人口のこれ以上の減少を食い止め、増加に転じさせることで、人口の若返りを図り、持続可能な人口構造へと転換することが何よりも重要であることから、ビジョンの目指す姿の中心に「若者の人口増加」を掲げ、少子化対策と一体となった新たな中山間対策を推進</p> <p>②10 年後に目指す将来像</p> <p>・地域に若者が増えた持続可能な人口構造のもと、デジタル技術の活用などにより、地域で安心して生活ができる環境が維持され、地域に多様な仕事があり、だれもが将来に希望をもって暮らし続けることができる、活力ある中山間地域</p> <p>③目標値</p> <p>令和 15 年までに、中山間地域のすべての市町村において</p> <p>・若者のうち、減少、流出の著しい 34 歳以下の人口について、令和 4 年よりも増加を目指す</p> <p>・出生数について、令和 4 年よりも増加を目指す</p> <p>＊県内中山間地域の高等学校 10 校における地元高校への進学率 50%以上（R5 入学 31.3%）</p> <p>（4）Society5.0 社会への対応</p> <p>・IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服</p> <p>・人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題を克服</p> <p>・社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人一人が快適で活躍できる社会</p>

項目	現状と課題 (○：現状、●：課題)																																																					
県立高等学校について	<p>○ 県立高等学校：33校（分校2校を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全日制：31校（うち夜間定時制併置10校（うち通信制併置1校を含む）、併設型中高一貫教育校3校、連携型中高一貫教育校4校） ・定時制多部制：2校（夜間併置2校（うち通信制併置1校を含む）） <table border="1"> <thead> <tr> <th>東部</th> <th>中部</th> <th>北部</th> <th>高吾</th> <th>幡多</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3校</td> <td>16校</td> <td>2校</td> <td>5校</td> <td>7校</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・併設型中高一貫教育校（5月1日現在の1年生の生徒数、（ ）内は入学定員） <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>高等学校</th> <th>併設中学校</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部</td> <td>安芸</td> <td>県立安芸中</td> <td>55(70)</td> <td>59(60)</td> <td>36(60)</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>高知国際</td> <td>県立高知国際中*</td> <td>70(70)</td> <td>60(60)</td> <td>81(80)</td> </tr> <tr> <td>西部</td> <td>中村</td> <td>県立中村中</td> <td>64(70)</td> <td>64(70)</td> <td>43(60)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※夜間学級を除く。県立高知国際中学校はH30に開校。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携型中高一貫教育校（R5年度） <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>高等学校</th> <th>連携中学校</th> <th>連携中学校からの進学率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北部</td> <td>嶺北</td> <td>嶺北中、土佐町中</td> <td>53.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高吾</td> <td>四万十</td> <td>大正中、十川中</td> <td>52.0</td> </tr> <tr> <td>構原</td> <td>構原中、東津野中</td> <td>52.4</td> </tr> <tr> <td>幡多</td> <td>清水</td> <td>清水中</td> <td>30.9</td> </tr> </tbody> </table>	東部	中部	北部	高吾	幡多	3校	16校	2校	5校	7校	地域	高等学校	併設中学校	H26	R1	R5	東部	安芸	県立安芸中	55(70)	59(60)	36(60)	中部	高知国際	県立高知国際中*	70(70)	60(60)	81(80)	西部	中村	県立中村中	64(70)	64(70)	43(60)	地域	高等学校	連携中学校	連携中学校からの進学率(%)	北部	嶺北	嶺北中、土佐町中	53.1	高吾	四万十	大正中、十川中	52.0	構原	構原中、東津野中	52.4	幡多	清水	清水中	30.9
	東部	中部	北部	高吾	幡多																																																	
	3校	16校	2校	5校	7校																																																	
	地域	高等学校	併設中学校	H26	R1	R5																																																
	東部	安芸	県立安芸中	55(70)	59(60)	36(60)																																																
	中部	高知国際	県立高知国際中*	70(70)	60(60)	81(80)																																																
	西部	中村	県立中村中	64(70)	64(70)	43(60)																																																
	地域	高等学校	連携中学校	連携中学校からの進学率(%)																																																		
	北部	嶺北	嶺北中、土佐町中	53.1																																																		
	高吾	四万十	大正中、十川中	52.0																																																		
構原		構原中、東津野中	52.4																																																			
幡多	清水	清水中	30.9																																																			
○ 中山間地域の学校：10校（定時制昼間部含む） ※前期：7校、後期：3校追加 前期：室戸、嶺北、佐川、窪川、構原、四万十、清水 後期：中芸、吾北分校、西土佐分校																																																						
○ 中山間地域の学校の地元進学者数 R5：31.3% ※中山間地域再興ビジョンにおける目標値（R15年度）50.0%																																																						
○ 全国から生徒を受け入れ可能な学校 R5：9校 R6：13校 R5：9校（室戸、嶺北、吾北、高知海洋、須崎総合造船、構原、四万十、大方、西土佐） R6：13校（上記に加え、山田グローバル探究科・ビジネス探究科、岡豊芸術コース・体育コース、城山、幡多農業）																																																						
○ 高等学校進学者の都市部への集中 高知市及び南国市の県立高校の生徒数割合 63.7% ※R5.5 全日制1年生																																																						
○ 学校の小規模校化 ※令和5年度1年生の実学級数※（R5.5.1現在、（ ）は定時制昼間部）																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学級数</th> <th>東部</th> <th>中部</th> <th>北部</th> <th>高吾</th> <th>幡多</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(中芸)</td> <td>城山、高岡、高知海洋</td> <td>嶺北、吾北分校</td> <td>佐川、窪川</td> <td>大方、西土佐分校、清水</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>室戸</td> <td>(高知北)</td> <td></td> <td>構原、四万十</td> <td>宿毛</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td>伊野商業</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td>山田、高知東工業、春野</td> <td></td> <td></td> <td>幡多農業、宿毛工業</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>安芸</td> <td>高知丸の内</td> <td></td> <td>須崎総合</td> <td>中村</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td>高知農業、高知東、高知追手前</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td>高知工業、高知小津、高知国際</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>岡豊</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 実学級数とは、実際に運用している学級数ではなく、40人を1学級として計算したもの。</p>	学級数	東部	中部	北部	高吾	幡多	1	(中芸)	城山、高岡、高知海洋	嶺北、吾北分校	佐川、窪川	大方、西土佐分校、清水	2	室戸	(高知北)		構原、四万十	宿毛	3		伊野商業				4		山田、高知東工業、春野			幡多農業、宿毛工業	5	安芸	高知丸の内		須崎総合	中村	6		高知農業、高知東、高知追手前				7		高知工業、高知小津、高知国際				8		岡豊			
学級数	東部	中部	北部	高吾	幡多																																																	
1	(中芸)	城山、高岡、高知海洋	嶺北、吾北分校	佐川、窪川	大方、西土佐分校、清水																																																	
2	室戸	(高知北)		構原、四万十	宿毛																																																	
3		伊野商業																																																				
4		山田、高知東工業、春野			幡多農業、宿毛工業																																																	
5	安芸	高知丸の内		須崎総合	中村																																																	
6		高知農業、高知東、高知追手前																																																				
7		高知工業、高知小津、高知国際																																																				
8		岡豊																																																				
<p>・1年生の実学級数推移（（ ）は1校当たりの生徒数の平均値）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学級</th> <th>2～3学級</th> <th>4～5学級</th> <th>6～8学級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26.5(36校)</td> <td>7(26.0)</td> <td>12(62.9)</td> <td>9(142.6)</td> <td>8(245.6)</td> </tr> <tr> <td>R5.5(33校)</td> <td>11(22.7)</td> <td>6(56.2)</td> <td>9(117.2)</td> <td>7(246.4)</td> </tr> </tbody> </table>		1学級	2～3学級	4～5学級	6～8学級	H26.5(36校)	7(26.0)	12(62.9)	9(142.6)	8(245.6)	R5.5(33校)	11(22.7)	6(56.2)	9(117.2)	7(246.4)																																							
	1学級	2～3学級	4～5学級	6～8学級																																																		
H26.5(36校)	7(26.0)	12(62.9)	9(142.6)	8(245.6)																																																		
R5.5(33校)	11(22.7)	6(56.2)	9(117.2)	7(246.4)																																																		
○ 不登校生徒数の現状 ※不登校生徒数（国公立学校）（人）																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学校</td> <td>783</td> <td>861</td> <td>1,043</td> <td>994</td> </tr> </tbody> </table>		R1	R2	R3	R4	中学校	783	861	1,043	994																																												
	R1	R2	R3	R4																																																		
中学校	783	861	1,043	994																																																		
○ 現計画において学びのセーフティネットの機能等を備えた学校 5校 中芸・城山・高知北・高岡・大方																																																						
○ 通級による指導実施校 4校 R5：中芸、高知北、城山、大方																																																						
○ 遠隔授業の実施 R2年度から遠隔授業配信センターから授業配信																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9校14講座</td> <td>10校18講座</td> <td>14校23講座</td> <td>16校34講座</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		R2	R3	R4	R5	9校14講座	10校18講座	14校23講座	16校34講座																																													
	R2	R3	R4	R5																																																		
9校14講座	10校18講座	14校23講座	16校34講座																																																			
○ 1人1台タブレット端末の整備 （令和3年度完了）																																																						
○ 公立高等学校（全課程）大学進学者数及び就職内定者数（人）																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学進学者数</td> <td>1,613</td> <td>1,477</td> <td>1,611</td> <td>1,626</td> </tr> <tr> <td>国公立</td> <td>525</td> <td>561</td> <td>575</td> <td>599</td> </tr> <tr> <td>就職内定者数</td> <td>988</td> <td>932</td> <td>806</td> <td>708</td> </tr> </tbody> </table>		R2	R3	R4	R5	大学進学者数	1,613	1,477	1,611	1,626	国公立	525	561	575	599	就職内定者数	988	932	806	708																																		
	R2	R3	R4	R5																																																		
大学進学者数	1,613	1,477	1,611	1,626																																																		
国公立	525	561	575	599																																																		
就職内定者数	988	932	806	708																																																		
● 今後さらに小規模校化が進むことへの対応 県立高等学校へ入学する生徒数の将来推計では、年々生徒数が減少し、R18にはR5から約1,300人減少する見込み。 ※県立高等学校へ入学する生徒数（全日制・定時制昼間部）の将来推計（H30からR4の平均進学率から推定）																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>R5</th> <th>R10</th> <th>R14</th> <th>R18</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部</td> <td>183</td> <td>140</td> <td>96</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>2,440</td> <td>2,169</td> <td>1,857</td> <td>1,481</td> </tr> <tr> <td>北部</td> <td>38</td> <td>38</td> <td>28</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>高吾</td> <td>251</td> <td>230</td> <td>186</td> <td>161</td> </tr> <tr> <td>幡多</td> <td>455</td> <td>416</td> <td>380</td> <td>268</td> </tr> </tbody> </table> <p>・入学者が都市部に集中し、他地域の生徒数が減っている。</p>	地域	R5	R10	R14	R18	東部	183	140	96	84	中部	2,440	2,169	1,857	1,481	北部	38	38	28	24	高吾	251	230	186	161	幡多	455	416	380	268																								
地域	R5	R10	R14	R18																																																		
東部	183	140	96	84																																																		
中部	2,440	2,169	1,857	1,481																																																		
北部	38	38	28	24																																																		
高吾	251	230	186	161																																																		
幡多	455	416	380	268																																																		
● 不登校生徒等への対応や、多様な学びへのニーズへの対応																																																						
● Society 5.0 社会への対応（デジタル化、グローバル化）																																																						
● 中学生や保護者等への魅力の発信について																																																						

項目		現状と課題 (○：現状、●：課題)					
県立高等学校について	全日制課程について	○ 全日制高等学校：31校 (うち併設型中高一貫教育校3校、連携型中高一貫教育校4校)					
		東部	中部	北部	高吾	幡多	
		2校	15校	2校	5校	7校	
		○ 公立私立高等学校全日制の生徒数にみる各学科の割合 (R5年度高校1年生) (%)					
		学科	普通科	産業系専門学科	産業系専門学科以外の専門学科	総合学科	
		高知県	64.3	24.8	2.3	8.5	
		全国	74.0	17.1	3.7	5.2	
		※端数処理のため、100%にならないことがある。					
		○ 現計画の適正規模・最低規模等の要件を満たしていない学校がある					
		適正規模：1学年4～8学級					
		最低規模：全日制1学年2学級以上					
		全日制1学年1学級(20人)以上※					
		※本校の特例校及び分校：過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校 不登校経験者や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を備えた学校					
		<ul style="list-style-type: none"> 最低規模を下回る学校 城山、嶺北、吾北分校、高岡、高知海洋、佐川、窪川、大方、西土佐分校、清水 特例校規模(1学年20人)を下回る学校 吾北分校、西土佐分校 本県全日制の適正規模、最低規模に関する考え方 					
						全日制	
		本校		分校			
		〈適正規模〉 ・1学年4学級以上(上限8学級)、高知市及びその周辺地域：1学年6学級以上 生徒の個性や進路希望などが多様化する状況に対応し、習熟度別の学習指導や総合選択制を取り入れた教育課程の編成などきめ細かい指導ができる体制を確保するため。 また、一定の生徒数の確保が見込まれる高知市及びその周辺地域については、生徒の個性・能力や進路希望等に対応した類型を設けるなど多様な教育課程の編成が可能であり、特別活動や部活動においても切磋琢磨し、より活気あふれる学校づくりができる1学年6学級以上の学校規模の維持に努める必要がある。			〈最低規模〉 ・1学年1学級20人以上が少なくとも必要 高等学校としての教育の質を維持していくため。 猶予期間を2年連続して20人を満たない状況となった場合に緩和		
		〈最低規模〉 ・本校の最低規模は1学年2学級以上 高等学校としての教育の質を確保するためには、生徒の多様な学習ニーズに応え、集団活動による社会性の育成を図ることが大切である。 過疎化が著しく近隣に他の高等学校がない学校：1学年1学級以上 不登校や発達障害等柔軟な対応が必要な学校：1学年1学級以上 ※教育の質を維持していくための集団としては少なくとも1学級20人以上が必要。					
		〈本校の最低規模の特例校〉 過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校であり、特例として1学年1学級(20人以上)を最低規模とする。 不登校経験者や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校であり、特例として1学年1学級(20人以上)を最低規模とする。			基準としては尊重するが、分校は小規模ということから、本校との連携、分校としての活性化策、地域からの支援を含め、本計画期間中はその取組の成果を検証しながら、基本的に継続する。		

※ 全日制・定時制課程には学年制や単位制がある。県立高等学校では定時制は単位制であるが、全日制は学年制が多い。

学年制：学年ごとに履修すべき科目等を履修し、定められた単位数を修得した場合に次の学年に進むことができる。

単位制：学年による教育課程の区分を設けないため、原級留置(留年)の考えをとらない。一定期間(全日制では3年、定時制通信制では3年以上)在学し、必要な単位の修得などの条件を満たせば、卒業することができる。全日制の一部(室戸、城山、高知東(総合学科)、高知丸の内(普通科)、伊野商業、春野、高岡、大方、宿毛)と定時制・通信制が採用。

項目			現状と課題 (○：現状、●：課題)				検討項目 (◇：論点、◆：前回までのご意見)																																																																																																																																																											
							適正規模・適切配置	魅力化・特色化																																																																																																																																																										
県立高等学校について	全日制課程について	普通科系	普通科系とは、普通科及び専門学科のうち産業系専門学科以外の学科（グローバル探究科、音楽科、理数科、グローバル科）を含む。 ○ 普通科：31校中20校 （うち専門学科を併置している学校6校） 総合学科で普通科系の系列がある学校：4校 ・1年生の生徒数（5月1日現在）				【適切配置】 ◇ 普通科系の配置について 【適正規模】 ◇ 現計画における適正規模・最低規模等の見直しの必要性について 【遠隔教育】 ◆ ICTは、単にコンテンツを配信するだけでなく、他校の生徒と切磋琢磨する環境が作れる。 ◆ ICTの普及により、小規模であっても教育効果をあげられる可能性は十分にあり、従来とは学校規模の考え方が変わってきて良い。																																																																																																																																																											
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>校名</th> <th>学科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">東部</td> <td>安芸</td> <td>普通</td> <td>120</td> <td>(114)</td> <td>(82)</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>嶺北</td> <td>普通</td> <td>80</td> <td>33</td> <td>37</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">北部</td> <td>吾北分校</td> <td>普通</td> <td>40</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>城山</td> <td>普通</td> <td>80</td> <td>45</td> <td>38</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">中部</td> <td rowspan="2">山田</td> <td>普通</td> <td>80</td> <td>(121)</td> <td>(89)</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>グローバル探究</td> <td>80</td> <td></td> <td></td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>岡豊</td> <td>普通</td> <td>320</td> <td>297</td> <td>274</td> <td>277</td> </tr> <tr> <td>高知追手前</td> <td>普通</td> <td>280</td> <td>255</td> <td>265</td> <td>234</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高知丸の内</td> <td>普通</td> <td>150</td> <td>149</td> <td>152</td> <td>147</td> </tr> <tr> <td>音楽</td> <td>30</td> <td>22</td> <td>18</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高知小津</td> <td>普通</td> <td>240</td> <td>221</td> <td>241</td> <td>228</td> </tr> <tr> <td>理数</td> <td>40</td> <td>39</td> <td>40</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高知国際</td> <td>普通</td> <td>200</td> <td></td> <td></td> <td>201</td> </tr> <tr> <td>グローバル</td> <td>80</td> <td></td> <td></td> <td>75</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高岡</td> <td>普通</td> <td>80</td> <td>32</td> <td>30</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>須崎総合(須崎)</td> <td>普通(総合学科)</td> <td>120</td> <td>(103)</td> <td>78</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">高吾</td> <td>佐川</td> <td>普通</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>34</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>窪川</td> <td>普通</td> <td>80</td> <td>38</td> <td>27</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>構原</td> <td>普通</td> <td>80</td> <td>29</td> <td>43</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>四万十</td> <td>普通</td> <td>80</td> <td>23</td> <td>28</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">幡多</td> <td>大方</td> <td>普通(昼間部・普通科)</td> <td>80</td> <td>(55)</td> <td>37</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>中村</td> <td>普通</td> <td>200</td> <td>185</td> <td>166</td> <td>168</td> </tr> <tr> <td>西土佐分校</td> <td>普通</td> <td>40</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>清水</td> <td>普通</td> <td>80</td> <td>42</td> <td>41</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>				地域	校名	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5	東部	安芸	普通	120	(114)	(82)	95	嶺北	普通	80	33	37	27	北部	吾北分校	普通	40	15	13	11	城山	普通	80	45	38	25	中部	山田	普通	80	(121)	(89)	61	グローバル探究	80			9	岡豊	普通	320	297	274	277	高知追手前	普通	280	255	265	234	高知丸の内	普通	150	149	152	147	音楽	30	22	18	12	高知小津	普通	240	221	241	228	理数	40	39	40	25	高知国際	普通	200			201	グローバル	80			75	高岡	普通	80	32	30	23	須崎総合(須崎)	普通(総合学科)	120	(103)	78	75	高吾	佐川	普通	80	48	34	37	窪川	普通	80	38	27	22	構原	普通	80	29	43	42	四万十	普通	80	23	28	25	幡多	大方	普通(昼間部・普通科)	80	(55)	37	36	中村	普通	200	185	166	168	西土佐分校	普通	40	14	12	8			清水	普通	80	42	41	22	【遠隔教育】 ◆ ICTの普及により、小規模であっても教育効果をあげられる可能性は十分にあり、従来とは学校規模の考え方が変わってきて良い。	
			地域	校名	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5																																																																																																																																																									
			東部	安芸	普通	120	(114)	(82)	95																																																																																																																																																									
				嶺北	普通	80	33	37	27																																																																																																																																																									
			北部	吾北分校	普通	40	15	13	11																																																																																																																																																									
				城山	普通	80	45	38	25																																																																																																																																																									
			中部	山田	普通	80	(121)	(89)	61																																																																																																																																																									
					グローバル探究	80			9																																																																																																																																																									
				岡豊	普通	320	297	274	277																																																																																																																																																									
高知追手前	普通	280		255	265	234																																																																																																																																																												
高知丸の内	普通	150		149	152	147																																																																																																																																																												
	音楽	30		22	18	12																																																																																																																																																												
高知小津	普通	240		221	241	228																																																																																																																																																												
	理数	40		39	40	25																																																																																																																																																												
高知国際	普通	200				201																																																																																																																																																												
	グローバル	80				75																																																																																																																																																												
高岡	普通	80	32	30	23																																																																																																																																																													
	須崎総合(須崎)	普通(総合学科)	120	(103)	78	75																																																																																																																																																												
高吾	佐川	普通	80	48	34	37																																																																																																																																																												
	窪川	普通	80	38	27	22																																																																																																																																																												
	構原	普通	80	29	43	42																																																																																																																																																												
	四万十	普通	80	23	28	25																																																																																																																																																												
幡多	大方	普通(昼間部・普通科)	80	(55)	37	36																																																																																																																																																												
	中村	普通	200	185	166	168																																																																																																																																																												
	西土佐分校	普通	40	14	12	8																																																																																																																																																												
		清水	普通	80	42	41	22																																																																																																																																																											
※ 総合学科で普通科系の系列がある学校 室戸高校総合学科：文理総合系列、商工業・芸術系列 高知東高校総合学科：Advanced（文系）・（理系）、Global Communication Skill（国際教養）、Social Skill（文系（保育理美容調理福祉）・理系（医療看護）、Flexible Future（幅広い進路に対応） 春野高校総合学科：人文系列 宿毛高校総合学科：人文・自然系列、教養系列、芸術・スポーツ系列				【現計画の適切な配置の考え方】 卒業後の多様な進路選択の保障と地域を担う人材の育成という観点から、県全体のバランスを考慮した適切な配置に努める。 難関大学や医学部等への進学も実現できる進学拠点校を県全体のバランスも考慮しながら配置する。 連携型中高一貫教育校については、地域の学校の状況等も踏まえながら、現在設置されていない地域への配置も検討する。 併設型中高一貫教育校については、東部、中央部、西部の3地域での配置を維持する。																																																																																																																																																														
○ 普通科以外の学科の開設が可能となり、清水高校が学際領域に関する学科改編に向けて検討中				【地域等との連携】 ◆ 高校を地域と一緒にブランディングしていくことが必要。 ◆ 小中学校と地域を巻き込んだ活動が必要。 ◆ 普通科で広く勉強することがあまりメリットになっておらず、普通科の議論も非常に重要。 ◆ 多様性を認めるような新しい学校を創ってもらえたらという意見もある。 【地域みらい留学等】 ◆ 少しずつ高知県をPRしながら、県外からの志願者を増やしてほしい。 【取組の発信】 ◆ 高校の特色を明確にアピールし、保護者に地元の学校の良さを認識してもらうことが必要。 ◆ 日本語の支援や様々な取組の魅力化が必要。 【遠隔教育】 ◆ 子ども達と先生の繋がりを大事にしながら進んでいくと良い。																																																																																																																																																														
○ 小規模校の1コース当たりの生徒数（2年次で選択するコースのみ）																																																																																																																																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学級規模*</th> <th>学校数</th> <th>平均コース数</th> <th>1コース当たりの生徒数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>9</td> <td>2.8</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>				学級規模*	学校数	平均コース数	1コース当たりの生徒数	1	9	2.8	8.4	2	1	3	14																																																																																																																																																			
学級規模*	学校数	平均コース数	1コース当たりの生徒数																																																																																																																																																															
1	9	2.8	8.4																																																																																																																																																															
2	1	3	14																																																																																																																																																															
※学級規模は実学級数で示している。																																																																																																																																																																		
● 生徒数減少に伴う普通科の在り方 ● 特色ある普通科改革の推進 ● 多様な学習ニーズを持つ生徒への対応 ● 各地域の資源を生かした、より特色のある学校の在り方																																																																																																																																																																		

項目			現状と課題 (○：現状、●：課題)				検討項目 (◇：論点、◆：前回までのご意見)																																																																									
							適正規模・適切配置	魅力化・特色化																																																																								
県立高等学校について	全日制課程について	産業系専門学科	<p>○ 産業系専門学科を設置している学校：11校 総合学科で産業系の系列がある学校：4校</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>東部</th> <th>北部・中部</th> <th>高吾</th> <th>幡多</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業科</td> <td></td> <td>高知農業</td> <td></td> <td>幡多農業</td> </tr> <tr> <td>工業科</td> <td>安芸</td> <td>高知東工業、高知工業</td> <td>須崎総合</td> <td>宿毛工業</td> </tr> <tr> <td>商業科</td> <td>安芸</td> <td>山田、伊野商業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水産科</td> <td></td> <td>高知海洋</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護科</td> <td></td> <td>高知東</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>県立高等学校では、農業・工業・商業・水産・看護に関する学科を設置し、総合学科の系列に福祉系・家庭系を設置</p>					東部	北部・中部	高吾	幡多	農業科		高知農業		幡多農業	工業科	安芸	高知東工業、高知工業	須崎総合	宿毛工業	商業科	安芸	山田、伊野商業			水産科		高知海洋			看護科		高知東			<p>【適切配置】</p> <p>◇ 各地域における産業系専門学科の配置について</p> <p>【適正規模】</p> <p>◇ 現計画における適正規模・最低規模等の見直しの必要性について</p>	<p>◇ デジタル化、グローバル化などこれからの社会への対応について</p> <p>◇ 地域での役割、他の専門科との連携等について</p> <p>◇ 中学生や保護者等への魅力の発信について</p> <p>◇ 高等教育機関との連携について</p> <p>◇ 人種、国籍、障害等に関係なく高校に通える仕組みづくり（インクルーシブ教育）について</p> <p>◇ 産業界等のニーズについて</p>																																										
				東部	北部・中部	高吾	幡多																																																																									
農業科		高知農業		幡多農業																																																																												
工業科	安芸	高知東工業、高知工業	須崎総合	宿毛工業																																																																												
商業科	安芸	山田、伊野商業																																																																														
水産科		高知海洋																																																																														
看護科		高知東																																																																														
		<p>農業科 2校 10学科</p> <p>・ 1年生の生徒数（5月1日現在）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>校名</th> <th>学 科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">北部・中部</td> <td rowspan="6">高知農業</td> <td>農業総合</td> <td>40</td> <td>34</td> <td>40</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>畜産総合</td> <td>40</td> <td>27</td> <td>33</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>森林総合</td> <td>40</td> <td>18</td> <td>20</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>環境土木</td> <td>40</td> <td>15</td> <td>27</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>食品ビジネス</td> <td>40</td> <td>33</td> <td>31</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>生活総合</td> <td>40</td> <td>30</td> <td>35</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">幡多</td> <td rowspan="4">幡多農業</td> <td>園芸システム</td> <td>40</td> <td>36</td> <td>28</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>アグリサイエンス</td> <td>40</td> <td>30</td> <td>29</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>グリーン環境</td> <td>40</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>生活コーディネート</td> <td>40</td> <td>37</td> <td>30</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 総合学科で農業系の系列がある学校：春野（園芸系列、食農系列）</p> <p>※ 普通科のうち農業に関するコース等を設置している学校：吾北分校、嶺北、窪川、檜原、四万十</p> <p>・ 進学者の割合及び就職者の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>農業科</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学者の割合 (%)</td> <td>59.2</td> <td>61.1</td> <td>66.2</td> <td>70.8</td> </tr> <tr> <td>就職者の割合 (%)</td> <td>35.0</td> <td>36.0</td> <td>32.0</td> <td>24.6</td> </tr> </tbody> </table>	地域	校名	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5	北部・中部	高知農業	農業総合	40	34	40	38	畜産総合	40	27	33	30	森林総合	40	18	20	14	環境土木	40	15	27	19	食品ビジネス	40	33	31	40	生活総合	40	30	35	38	幡多	幡多農業	園芸システム	40	36	28	18	アグリサイエンス	40	30	29	15	グリーン環境	40	20	19	15	生活コーディネート	40	37	30	22	農業科	R1	R2	R3	R4	進学者の割合 (%)	59.2	61.1	66.2	70.8	就職者の割合 (%)	35.0	36.0	32.0	24.6	<p>【現計画の適切な配置の考え方】</p> <p>本県の産業を担う人材の育成及び産業振興のため、現状の学校の配置を維持することに努める。ただし、生徒数の減少等により、現在の配置が維持できない場合には、他の高等学校との統合による複数学科の併置も含め、県全体のバランスを考えた計画的な改編を実施する。</p> <p>産業系高等学校の専門学科や普通科高等学校で産業系科目を設置しているコースにおいては、各校の活性化と教育内容の充実、適切な定員管理の実施に向けて、入学者数の状況や生徒のニーズ、産業構造の変化や就業形態の多様化などの社会環境の変化も見据えたうえで、随時、設置科やコースについての見直しを進める。</p>	<p>【地域等との連携】</p> <p>◆ 県内の産業について興味を持ち、それを目指した子ども達の育成が必要。</p> <p>◆ 県内の産業の充実と日本語の支援等の取組が必要。</p>
地域	校名	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5																																																																										
北部・中部	高知農業	農業総合	40	34	40	38																																																																										
		畜産総合	40	27	33	30																																																																										
		森林総合	40	18	20	14																																																																										
		環境土木	40	15	27	19																																																																										
		食品ビジネス	40	33	31	40																																																																										
		生活総合	40	30	35	38																																																																										
幡多	幡多農業	園芸システム	40	36	28	18																																																																										
		アグリサイエンス	40	30	29	15																																																																										
		グリーン環境	40	20	19	15																																																																										
		生活コーディネート	40	37	30	22																																																																										
農業科	R1	R2	R3	R4																																																																												
進学者の割合 (%)	59.2	61.1	66.2	70.8																																																																												
就職者の割合 (%)	35.0	36.0	32.0	24.6																																																																												

第3回 県立高等学校の在り方検討委員会 検討資料

項目	現状と課題 (○:現状、●:課題)	検討項目 (◇:論点、◆:前回までのご意見)																																																																																																																																																																									
		適正規模・適切配置	魅力化・特色化																																																																																																																																																																								
	<p>工業科 5校 19学科 12専攻</p> <p>・1年生の生徒数(5月1日現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>学校</th> <th>学 科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部</td> <td>安芸 (安芸桜ヶ丘)</td> <td>機械土木:機械専攻、土木専攻 (環境建設:土木専攻、建築専攻)</td> <td>40</td> <td>(15)</td> <td>(6)</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">北部・中部</td> <td rowspan="4">高知東工業</td> <td>機械</td> <td>40</td> <td>34</td> <td>37</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>機械生産システム</td> <td>40</td> <td>22</td> <td>9</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>電子</td> <td>40</td> <td>33</td> <td>16</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>電子機械</td> <td>40</td> <td>35</td> <td>18</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">高知工業</td> <td>機械</td> <td>40</td> <td>39</td> <td>37</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>電気</td> <td>40</td> <td>37</td> <td>29</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>情報技術</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>工業化学</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>土木</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>建築</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>総合デザイン</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>33</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">高吾</td> <td rowspan="3">須崎総合</td> <td>機械系:機械専攻、造船専攻</td> <td>40</td> <td></td> <td>39</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>電気情報系:電気専攻、電子情報専攻</td> <td>40</td> <td></td> <td>31</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>システム工学系:機械制御専攻、住環境専攻</td> <td>40</td> <td></td> <td>22</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">幡多</td> <td rowspan="4">宿毛工業</td> <td>機械:機械専攻、自動車専攻</td> <td>40</td> <td>38</td> <td>20</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>建設:土木専攻、建築専攻</td> <td>40</td> <td>38</td> <td>30</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>電気</td> <td>40</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>情報技術</td> <td>40</td> <td>33</td> <td>36</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 総合学科で工業系の系列がある学校:室戸(商工業・芸術系列)</p> <p>・進学者の割合及び就職者の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工業科</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学者の割合(%)</td> <td>35.2</td> <td>34.8</td> <td>36.8</td> <td>37.5</td> </tr> <tr> <td>就職者の割合(%)</td> <td>59.1</td> <td>59.3</td> <td>58.0</td> <td>56.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>商業科 3校 3学科</p> <p>・1年生の生徒数(5月1日現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>学校</th> <th>学 科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部</td> <td>安芸(安芸桜ヶ丘)</td> <td>ビジネス(情報ビジネス)</td> <td>40</td> <td>(24)</td> <td>(14)</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">北部・中部</td> <td>山田</td> <td>ビジネス探究(商業)</td> <td>40</td> <td>(26)</td> <td>(19)</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>伊野商業</td> <td>キャリアビジネス</td> <td>160</td> <td>134</td> <td>112</td> <td>109</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 総合学科で商業系の系列がある学校: 室戸(商工業・芸術系列)、高知東(Business Skill(情報系))、宿毛(商業系列)</p> <p>※ 普通科のうち商業に関するコース等を設置している学校: 城山、嶺北、岡豊、須崎総合、窪川、檜原、大方</p> <p>・進学者の割合及び就職者の割合(高知商業を含む)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>商業科</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学者の割合(%)</td> <td>68.3</td> <td>71.5</td> <td>68.9</td> <td>81.7</td> </tr> <tr> <td>就職者の割合(%)</td> <td>28.3</td> <td>24.9</td> <td>24.1</td> <td>16.1</td> </tr> </tbody> </table>	地域	学校	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5	東部	安芸 (安芸桜ヶ丘)	機械土木:機械専攻、土木専攻 (環境建設:土木専攻、建築専攻)	40	(15)	(6)	10	北部・中部	高知東工業	機械	40	34	37	40	機械生産システム	40	22	9	12	電子	40	33	16	18	電子機械	40	35	18	20	高知工業	機械	40	39	37	39	電気	40	37	29	40	情報技術	40	40	40	36	工業化学	40	40	41	40	土木	40	40	40	40	建築	40	40	40	40	総合デザイン	40	40	33	41	高吾	須崎総合	機械系:機械専攻、造船専攻	40		39	26	電気情報系:電気専攻、電子情報専攻	40		31	8	システム工学系:機械制御専攻、住環境専攻	40		22	16	幡多	宿毛工業	機械:機械専攻、自動車専攻	40	38	20	21	建設:土木専攻、建築専攻	40	38	30	35	電気	40	19	20	6	情報技術	40	33	36	27	工業科	R1	R2	R3	R4	進学者の割合(%)	35.2	34.8	36.8	37.5	就職者の割合(%)	59.1	59.3	58.0	56.0	地域	学校	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5	東部	安芸(安芸桜ヶ丘)	ビジネス(情報ビジネス)	40	(24)	(14)	20	北部・中部	山田	ビジネス探究(商業)	40	(26)	(19)	27	伊野商業	キャリアビジネス	160	134	112	109	商業科	R1	R2	R3	R4	進学者の割合(%)	68.3	71.5	68.9	81.7	就職者の割合(%)	28.3	24.9	24.1	16.1		
地域	学校	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5																																																																																																																																																																					
東部	安芸 (安芸桜ヶ丘)	機械土木:機械専攻、土木専攻 (環境建設:土木専攻、建築専攻)	40	(15)	(6)	10																																																																																																																																																																					
北部・中部	高知東工業	機械	40	34	37	40																																																																																																																																																																					
		機械生産システム	40	22	9	12																																																																																																																																																																					
		電子	40	33	16	18																																																																																																																																																																					
		電子機械	40	35	18	20																																																																																																																																																																					
	高知工業	機械	40	39	37	39																																																																																																																																																																					
		電気	40	37	29	40																																																																																																																																																																					
		情報技術	40	40	40	36																																																																																																																																																																					
		工業化学	40	40	41	40																																																																																																																																																																					
		土木	40	40	40	40																																																																																																																																																																					
		建築	40	40	40	40																																																																																																																																																																					
総合デザイン	40	40	33	41																																																																																																																																																																							
高吾	須崎総合	機械系:機械専攻、造船専攻	40		39	26																																																																																																																																																																					
		電気情報系:電気専攻、電子情報専攻	40		31	8																																																																																																																																																																					
		システム工学系:機械制御専攻、住環境専攻	40		22	16																																																																																																																																																																					
幡多	宿毛工業	機械:機械専攻、自動車専攻	40	38	20	21																																																																																																																																																																					
		建設:土木専攻、建築専攻	40	38	30	35																																																																																																																																																																					
		電気	40	19	20	6																																																																																																																																																																					
		情報技術	40	33	36	27																																																																																																																																																																					
工業科	R1	R2	R3	R4																																																																																																																																																																							
進学者の割合(%)	35.2	34.8	36.8	37.5																																																																																																																																																																							
就職者の割合(%)	59.1	59.3	58.0	56.0																																																																																																																																																																							
地域	学校	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5																																																																																																																																																																					
東部	安芸(安芸桜ヶ丘)	ビジネス(情報ビジネス)	40	(24)	(14)	20																																																																																																																																																																					
北部・中部	山田	ビジネス探究(商業)	40	(26)	(19)	27																																																																																																																																																																					
	伊野商業	キャリアビジネス	160	134	112	109																																																																																																																																																																					
商業科	R1	R2	R3	R4																																																																																																																																																																							
進学者の割合(%)	68.3	71.5	68.9	81.7																																																																																																																																																																							
就職者の割合(%)	28.3	24.9	24.1	16.1																																																																																																																																																																							

項目			現状と課題 (○：現状、●：課題)				検討項目 (◇：論点、◆：前回までのご意見)																
							適正規模・適切配置	魅力化・特色化															
県立高等学校について	全日制課程について	産業系専門学科	水産科 1校1学科 ・1年生の生徒数(5月1日現在)																				
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>学校</th> <th>学科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北部・中部</td> <td>高知海洋</td> <td>海洋</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>35</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>					地域	学校	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5	北部・中部	高知海洋	海洋	80	48	35	30		
			地域	学校	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5														
北部・中部	高知海洋	海洋	80	48	35	30																	
・進学者の割合及び就職者の割合																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>水産科</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学者の割合(%)</td> <td>28.3</td> <td>32.4</td> <td>30.3</td> <td>51.6</td> </tr> <tr> <td>就職者の割合(%)</td> <td>66.0</td> <td>55.9</td> <td>60.6</td> <td>29.0</td> </tr> </tbody> </table>					水産科	R1	R2	R3	R4	進学者の割合(%)	28.3	32.4	30.3	51.6	就職者の割合(%)	66.0	55.9	60.6	29.0				
水産科	R1	R2	R3	R4																			
進学者の割合(%)	28.3	32.4	30.3	51.6																			
就職者の割合(%)	66.0	55.9	60.6	29.0																			
看護科 1校1学科 ・1年生の生徒数(5月1日現在)																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>学校</th> <th>学科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北部・中部</td> <td>高知東</td> <td>看護</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>22</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>					地域	学校	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5	北部・中部	高知東	看護	30	30	22	30					
地域	学校	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5																	
北部・中部	高知東	看護	30	30	22	30																	
・看護科は、看護専攻科(2年間)を合わせた5年一貫教育を行っている。																							
福祉系・家庭系 ※ 総合学科で福祉系・家庭系の系列がある学校： 室戸(生活福祉系列)、春野(生活クリエイト系列)、宿毛(保育・福祉系列) ※ 普通科のうち福祉・家庭に関するコースを設置している学校： 城山、岡豊、吾北分校、須崎総合、構原																							
<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒数減少に伴う専門学科の在り方 ● 生徒のニーズ、これからの社会を踏まえた専門学科改革への対応 ● 多様な学習ニーズを持つ生徒への対応 ● 県産業振興計画に基づいた産業系専門学科の在り方 <ul style="list-style-type: none"> ・企業との連携による県内担い手人材の育成 																							

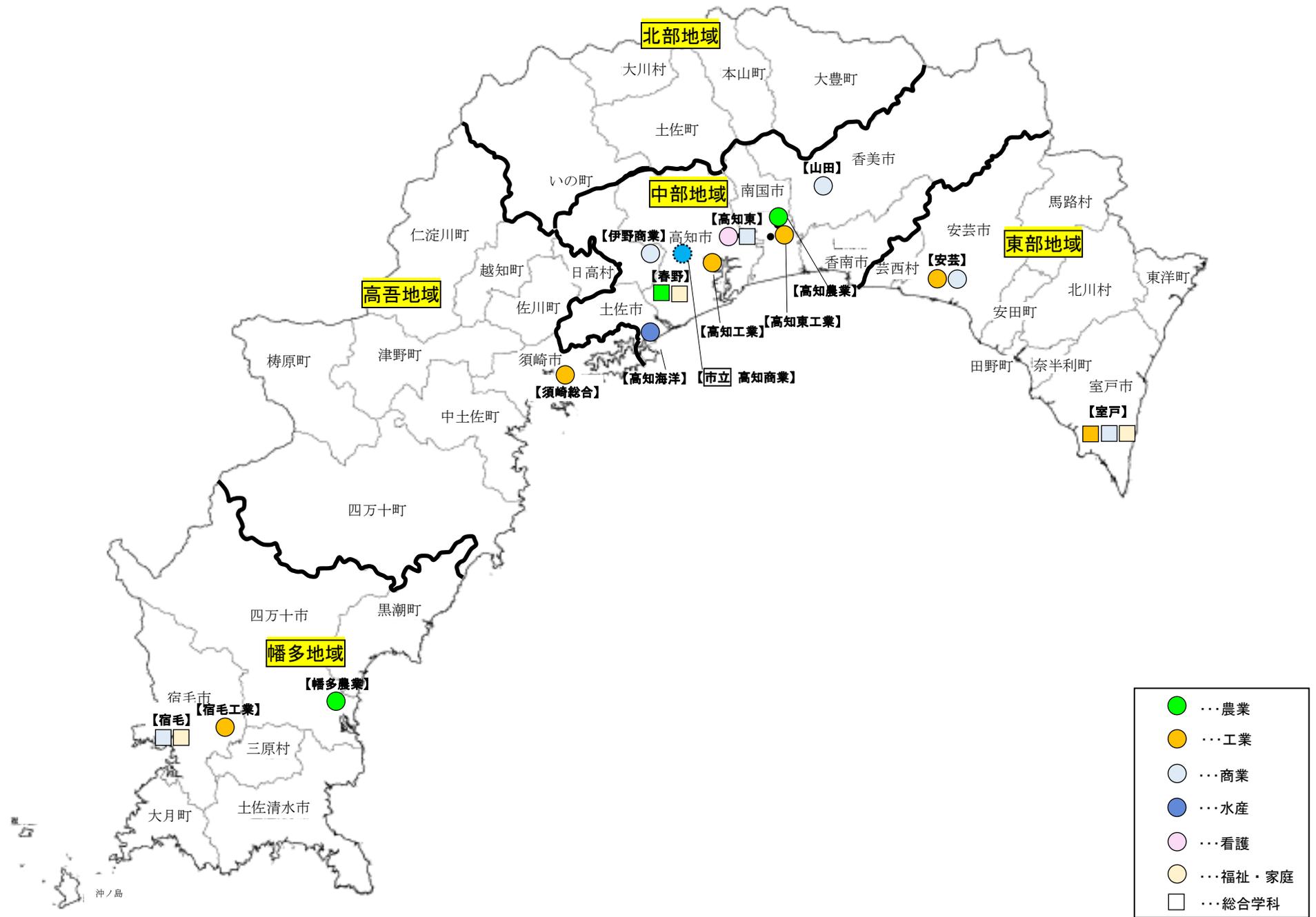
項目			現状と課題 (○：現状、●：課題)				検討項目 (◇：論点、◆：前回までのご意見)		
							適正規模・適切配置	魅力化・特色化	
県立高等学校について	全日制課程について	総合学科	○ 総合学科：4校（東部1校、中部2校、西部1校）				<p>◇ 各地域における総合学科の配置について</p> <p>◇ 現計画における適正規模・最低規模等の見直しの必要性について</p>	<p>◇ デジタル化、グローバル化などこれからの社会への対応について</p> <p>◇ 中学生や保護者等への魅力の発信について</p> <p>◇ 人種、国籍、障害等に関係なく高校に通える仕組みづくり（インクルーシブ教育）について</p> <p>【取組の発信】</p> <p>◆ 高校の特色を明確にアピールし、保護者に地元の学校の良さを認識してもらうことが必要。</p> <p>◆ 日本語の支援や様々な取組の魅力化が必要。</p>	
			・ 1年生の生徒数（5月1日現在）及び系列						<p>【適切配置】</p> <p>【適正規模】</p> <p>【現計画の適切な配置の考え方】</p> <p>総合学科は、生徒が興味関心に応じて系列を選択することで多様な進路希望に対応できるという特色を生かすために、現在の各地域での配置を維持することに努める。</p> <p>ただし、生徒数の減少等により、学校によって複数の系列を置くことが困難な場合には、生徒数や地域の状況も踏まえつつ必要に応じて普通科への改編も検討する。</p>
			地域	学校	R5 入学定員	H26			
東部	室戸	80	52	34	49	①文理総合、②商工業・芸術、③生活福祉			
中部	高知東	200	195	195	200	①Advanced(文系) ②Advanced(理系) ③Business Skill(情報系) ④Global Communication Skill(国際教養) ⑤Social Skill 文系(保育理美容調理福祉) ⑥Social Skill 理系(医療看護) ⑦Flexible Future(幅広い進路に対応)			
	春野	160	160	121	132	①園芸、②食農、③生活クリエイト、④人文			
西部	宿毛	120	92	86	62	①人文・自然、②教養、③保育・福祉、④商業、⑤芸術・スポーツ			
			● 総合学科はどのような内容で、どのような取り組みをしているのかが見えにくい						
			● 多様な学習ニーズを持つ生徒への対応						
			● 生徒数の減少に伴い、多くの系列を維持することが困難となる中での総合学科の在り方						

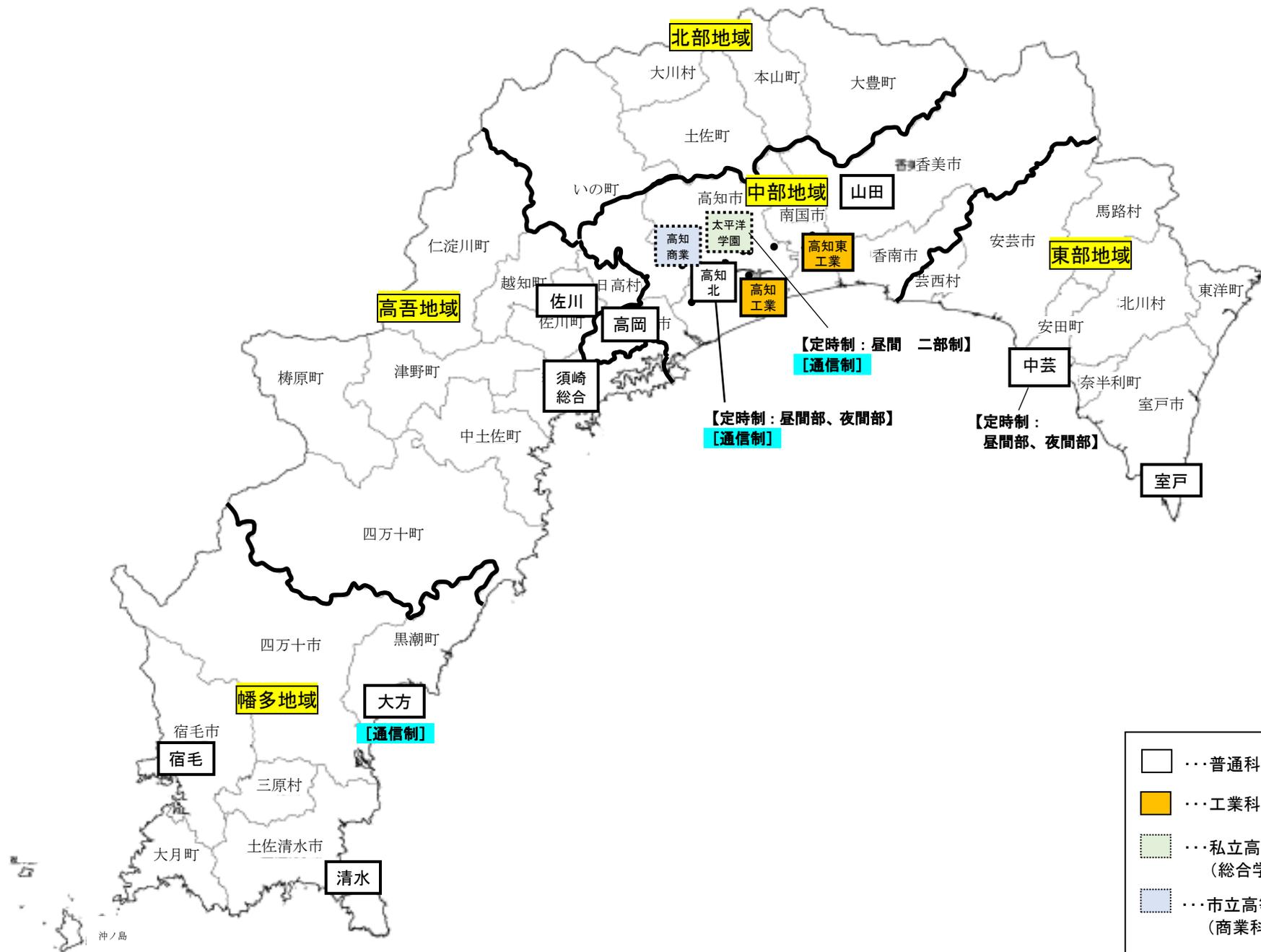
※ 総合学科

- ・ 普通教育と専門教育の選択。生徒自身の興味・関心や進路の方向に沿った科目履修ができる。
- ・ 科目群としてまとめたものを系列という（人文系列、園芸系列等）。
- ・ 単位制による課程とすることが原則。
- ・ 「産業社会と人間」の科目を全ての生徒が履修する必要がある。

項目	現状と課題 (○：現状、●：課題)	検討項目 (◇：論点、◆：前回までのご意見)																																																																																																							
		適正規模・適切配置	魅力化・特色化																																																																																																						
県立高等学校について 定時制課程について	<p>○ 定時制：12校（うち多部制（昼間部・夜間部）2校）</p> <p>・全校の在籍者数（5月1日現在）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>学校</th> <th>学科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">東部</td> <td rowspan="2">室戸</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>昼間部普通科</td> <td>40</td> <td>57</td> <td>48</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>夜間部普通科</td> <td>40</td> <td>11</td> <td>18</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">中部</td> <td rowspan="2">山田</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>20</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>高知東工業</td> <td>機械科</td> <td>40</td> <td>36</td> <td>27</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">高知工業</td> <td>機械科</td> <td>40</td> <td>31</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>電気科</td> <td>40</td> <td>20</td> <td>13</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>土木科</td> <td>40</td> <td>22</td> <td>15</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高知北</td> <td>昼間部普通科</td> <td>80</td> <td>245</td> <td>234</td> <td>163</td> </tr> <tr> <td>夜間部普通科</td> <td>40</td> <td>127</td> <td>64</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高岡</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>27</td> <td>21</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>須崎総合</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>27</td> <td>18</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高吾</td> <td>佐川</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>24</td> <td>18</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>大方</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>25</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">幡多</td> <td>宿毛</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>51</td> <td>16</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>清水</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	地域	学校	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5	東部	室戸	普通科	40	12	16	8	昼間部普通科	40	57	48	35	夜間部普通科	40	11	18	20	中部	山田	普通科	40	41	20	22	高知東工業	機械科	40	36	27	12	高知工業	機械科	40	31	8	9	電気科	40	20	13	20	土木科	40	22	15	11	高知北	昼間部普通科	80	245	234	163	夜間部普通科	40	127	64	40	高岡	普通科	40	27	21	16	須崎総合	普通科	40	27	18	19	高吾	佐川	普通科	40	24	18	17	大方	普通科	40	25	10	13	幡多	宿毛	普通科	40	51	16	12	清水	普通科	40	17	15	8	<p>【適切配置】</p> <p>◇ 各地域における定時制高校の配置について</p> <p>◇ 通信制との連携について</p> <p>【適正規模】</p> <p>◇ 現計画における最低規模等の見直しの必要性について</p>	<p>◇ デジタル化、グローバル化などこれからの社会への対応について</p> <p>◇ ICT 機器の効果的な活用方法と、遠隔教育の活用について</p> <p>◇ 学びたい時間を選ぶことのできる3部制等の導入の検討について</p> <p>◇ 転・編入学への柔軟な対応について</p> <p>◇ 通信制や全日制単位制との連携について</p> <p>◇ 人種、国籍、障害等に関係なく高校に通える仕組みづくり（インクルーシブ教育）について</p> <p>【ICT活用等】</p> <p>◆ 定時制・通信制は、高校の学びの最後の砦であり大事である。</p> <p>◆ ICTを活用し、学びやすい環境をつくるべきである。</p> <p>◆ ICTの画面へ出るだけでも難しい子どももいる。単にICTで繋がるだけではなく、気持ちと気持ちが繋がる人と繋がっていききたい生徒もいる。</p>
	地域	学校	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5																																																																																																		
	東部	室戸	普通科	40	12	16	8																																																																																																		
			昼間部普通科	40	57	48	35																																																																																																		
		夜間部普通科	40	11	18	20																																																																																																			
	中部	山田	普通科	40	41	20	22																																																																																																		
			高知東工業	機械科	40	36	27	12																																																																																																	
		高知工業	機械科	40	31	8	9																																																																																																		
			電気科	40	20	13	20																																																																																																		
			土木科	40	22	15	11																																																																																																		
高知北		昼間部普通科	80	245	234	163																																																																																																			
		夜間部普通科	40	127	64	40																																																																																																			
高岡	普通科	40	27	21	16																																																																																																				
	須崎総合	普通科	40	27	18	19																																																																																																			
高吾	佐川	普通科	40	24	18	17																																																																																																			
	大方	普通科	40	25	10	13																																																																																																			
幡多	宿毛	普通科	40	51	16	12																																																																																																			
	清水	普通科	40	17	15	8																																																																																																			
	<p>○ 現計画の最低規模の要件を満たしていない学校がある</p> <p>最低規模を下回る学校（夜間課程）：室戸、高知東工業、高岡、須崎総合、佐川、大方、宿毛、清水</p> <p>・本県定時制の最低規模に関する考え方</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">H26 再編振興計画</td> <td> 〈夜間の最低規模〉 ・学校全体の生徒数 20人以上 様々な学びを保障するため、1学年1学級 10人程度以上から緩和し学校の維持に努める。 </td> </tr> <tr> <td> 〈昼間の最低規模〉 ・1学年1学級 20人以上 不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟に対応できる支援体制の特徴を生かしながら、高等学校としての教育の質を保证するため。 </td> </tr> <tr> <td>H30 再編振興計画後期実施計画</td> <td> 規模よりも、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴の生徒にとっての学びのセーフティネットとしての側面を重視する必要がある。 よって、「学校全体の生徒数が20人以上」としている最低規模の基準については、望ましい数字ではあるが、この数にこだわることなく、地域にとって必要な定時制は、維持すべきである。 なお、維持する手法として、ICTを活用した社会性の育成など、新たな学びの在り方について工夫する必要がある。 現状、最低規模を下回っている定時制は複数あるが、大きく20名を下回っている学校はないことから、本計画期間中は、基本的に継続する。 </td> </tr> </table>	H26 再編振興計画	〈夜間の最低規模〉 ・学校全体の生徒数 20人以上 様々な学びを保障するため、1学年1学級 10人程度以上から緩和し学校の維持に努める。	〈昼間の最低規模〉 ・1学年1学級 20人以上 不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟に対応できる支援体制の特徴を生かしながら、高等学校としての教育の質を保证するため。	H30 再編振興計画後期実施計画	規模よりも、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴の生徒にとっての学びのセーフティネットとしての側面を重視する必要がある。 よって、「学校全体の生徒数が20人以上」としている最低規模の基準については、望ましい数字ではあるが、この数にこだわることなく、地域にとって必要な定時制は、維持すべきである。 なお、維持する手法として、ICTを活用した社会性の育成など、新たな学びの在り方について工夫する必要がある。 現状、最低規模を下回っている定時制は複数あるが、大きく20名を下回っている学校はないことから、本計画期間中は、基本的に継続する。	<p>【現計画の適切な配置の考え方】</p> <p>定時制は、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴の生徒に柔軟に対応するため各地域での定時制課程の配置に努める。ただし、生徒数の減少に伴い統廃合を検討する場合には、学校の役割や地域の実態、学科の内容、通学手段も考慮した配置を検討する。多部制単位制は、生徒数の減少によって多部制の機能を十分に果たせない状況になった場合は、その在り方について見直しを検討する。</p>																																																																																																		
H26 再編振興計画	〈夜間の最低規模〉 ・学校全体の生徒数 20人以上 様々な学びを保障するため、1学年1学級 10人程度以上から緩和し学校の維持に努める。																																																																																																								
	〈昼間の最低規模〉 ・1学年1学級 20人以上 不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟に対応できる支援体制の特徴を生かしながら、高等学校としての教育の質を保证するため。																																																																																																								
H30 再編振興計画後期実施計画	規模よりも、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴の生徒にとっての学びのセーフティネットとしての側面を重視する必要がある。 よって、「学校全体の生徒数が20人以上」としている最低規模の基準については、望ましい数字ではあるが、この数にこだわることなく、地域にとって必要な定時制は、維持すべきである。 なお、維持する手法として、ICTを活用した社会性の育成など、新たな学びの在り方について工夫する必要がある。 現状、最低規模を下回っている定時制は複数あるが、大きく20名を下回っている学校はないことから、本計画期間中は、基本的に継続する。																																																																																																								
	<p>○ 公立高等学校の定時制夜間部生徒の就労状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒数（人）</td> <td>332</td> <td>320</td> <td>270</td> <td>259</td> <td>263</td> </tr> <tr> <td>有職生徒数（人）</td> <td>230</td> <td>192</td> <td>158</td> <td>144</td> <td>135</td> </tr> <tr> <td>割合（％）</td> <td>69.3</td> <td>60.0</td> <td>58.5</td> <td>55.6</td> <td>51.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>● 生徒数減少に伴う定時制の在り方</p> <p>● 有職生徒数の割合が減少しており、生徒の学習ニーズが多様化している中での定時制の在り方</p>		R1	R2	R3	R4	R5	生徒数（人）	332	320	270	259	263	有職生徒数（人）	230	192	158	144	135	割合（％）	69.3	60.0	58.5	55.6	51.3																																																																																
	R1	R2	R3	R4	R5																																																																																																				
生徒数（人）	332	320	270	259	263																																																																																																				
有職生徒数（人）	230	192	158	144	135																																																																																																				
割合（％）	69.3	60.0	58.5	55.6	51.3																																																																																																				

項目	現状と課題 (○：現状、●：課題)	検討項目 (◇：論点、◆：前回までのご意見)																																																																																																															
		適正規模・適切配置	魅力化・特色化																																																																																																														
県立高等学校について	<p>通信制課程について</p> <p>○ 通信制：2校（中部1校、幡多1校） 自学自習によるレポート・添削指導（郵送によるやり取り）、月数回程度のスクーリング（面接指導）、試験等により単位が認定される。 ・全校の在籍者数（5月1日現在）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>学校</th> <th>学科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中部</td> <td>高知北</td> <td>普通科</td> <td>200</td> <td>448</td> <td>350</td> <td>305</td> </tr> <tr> <td>幡多</td> <td>大方</td> <td>普通科</td> <td>100</td> <td>84</td> <td>77</td> <td>77</td> </tr> </tbody> </table> <p>※私立の通信制高校：1校（高知県に本校のある学校のみ）</p> <p>○ 全国的な通信制課程の需要の高まり ・全国の通信制課程に在籍している生徒数（人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公立</td> <td>71,180</td> <td>56,373</td> <td>57,437</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>112,574</td> <td>141,323</td> <td>207,537</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>183,754</td> <td>197,696</td> <td>264,974</td> </tr> </tbody> </table> <p>・全国の通信制課程の学校数（併置校は全日制・定時制の課程を併置している学校）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">H26</th> <th colspan="3">R1</th> <th colspan="3">R5</th> </tr> <tr> <th>独立校</th> <th>併置校</th> <th>合計</th> <th>独立校</th> <th>併置校</th> <th>合計</th> <th>独立校</th> <th>併置校</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公立</td> <td>8</td> <td>69</td> <td>77</td> <td>7</td> <td>71</td> <td>78</td> <td>6</td> <td>72</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>90</td> <td>64</td> <td>154</td> <td>106</td> <td>69</td> <td>175</td> <td>125</td> <td>86</td> <td>211</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>98</td> <td>133</td> <td>231</td> <td>113</td> <td>140</td> <td>253</td> <td>131</td> <td>158</td> <td>289</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 公立高等学校の通信制生徒の就労状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒数（人）</td> <td>427</td> <td>388</td> <td>359</td> <td>370</td> <td>382</td> </tr> <tr> <td>有職生徒数（人）</td> <td>217</td> <td>211</td> <td>175</td> <td>177</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>割合（％）</td> <td>50.8</td> <td>54.4</td> <td>48.7</td> <td>47.8</td> <td>49.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>● 全国的に通信制課程の需要の高まりがあるが、県立高等学校通信制の生徒は増えておらず、県内の生徒を十分に受け入れられていない可能性がある</p> <p>● 多様な学習ニーズを持つ生徒への対応</p>	地域	学校	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5	中部	高知北	普通科	200	448	350	305	幡多	大方	普通科	100	84	77	77		H26	R1	R5	公立	71,180	56,373	57,437	私立	112,574	141,323	207,537	合計	183,754	197,696	264,974		H26			R1			R5			独立校	併置校	合計	独立校	併置校	合計	独立校	併置校	合計	公立	8	69	77	7	71	78	6	72	78	私立	90	64	154	106	69	175	125	86	211	合計	98	133	231	113	140	253	131	158	289		R1	R2	R3	R4	R5	生徒数（人）	427	388	359	370	382	有職生徒数（人）	217	211	175	177	190	割合（％）	50.8	54.4	48.7	47.8	49.7	<p>【適切配置】</p> <p>◇ 通信制の配置について</p> <p>◇ 定時制との連携について ・サテライト校設置等の検討</p> <p>【現計画の適切な配置の考え方】 通信制は、生徒のニーズに対応するため、現在の中央部と西部の2校の配置を維持するとともに、東部のニーズに対応するために通信制と定時制の併修の在り方を検討する。</p>	<p>◇ デジタル化、グローバル化などこれからの社会への対応について</p> <p>◇ ICT 機器の効果的な活用方法と、遠隔教育の通信制への活用について</p> <p>◇ 転・編入学への柔軟な対応について</p> <p>◇ 定時制や全日制単位制との連携について</p> <p>◇ 人種、国籍、障害等に関係なく高校に通える仕組みづくり（インクルーシブ教育）</p> <p>【ICT活用等】</p> <p>◆ 定時制・通信制は、高校の学びの最後の砦であり大事である。</p> <p>◆ ICT を活用し、学びやすい環境をつくるべきである。</p> <p>◆ ICT の画面へ出るだけでも難しい子どももいる。単に ICT で繋がるだけでなく、気持ちと気持ちが繋がる人と繋がっていききたい生徒もいる。</p>
		地域	学校	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5																																																																																																									
中部	高知北	普通科	200	448	350	305																																																																																																											
幡多	大方	普通科	100	84	77	77																																																																																																											
	H26	R1	R5																																																																																																														
公立	71,180	56,373	57,437																																																																																																														
私立	112,574	141,323	207,537																																																																																																														
合計	183,754	197,696	264,974																																																																																																														
	H26			R1			R5																																																																																																										
	独立校	併置校	合計	独立校	併置校	合計	独立校	併置校	合計																																																																																																								
公立	8	69	77	7	71	78	6	72	78																																																																																																								
私立	90	64	154	106	69	175	125	86	211																																																																																																								
合計	98	133	231	113	140	253	131	158	289																																																																																																								
	R1	R2	R3	R4	R5																																																																																																												
生徒数（人）	427	388	359	370	382																																																																																																												
有職生徒数（人）	217	211	175	177	190																																																																																																												
割合（％）	50.8	54.4	48.7	47.8	49.7																																																																																																												





○人口、面積、県民所得等からみて、高知県と共通箇所が多い都道府県等

都道府県	人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)	世帯数 (千世帯)	県民所得 (千円)	学校数(校)						適正規模	最低規模	特例設定等(全日制)	特例設定等(定時制)	定時制への 三部制設置状況	
						公立			私立								
						全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制						
高知県	693,369	7,103.6	98	351	2,663	本:30 分:2	13	2	8	1	1	<p>1学年4学級～8学級</p> <p>○生徒の個性や進路希望などが多様化する状況に対応し、習熟度別の学習指導や総合選択制を取り入れた教育課程の編成など、きめ細かい指導ができる体制を確保するためには、1学年4学級以上の学級規模が必要(上限は8学級まで)。</p> <p>(都市部の高等学校) 一定の生徒数の確保が見込まれる高知市及びその周辺地域は、生徒の個性・能力や進路希望等に応じた類型を設けるなど多様な教育課程の編成が可能であり、特別活動や部活動においても切磋琢磨し、より活気あふれる学校づくりができる1学年6学級以上の学校規模の維持に努める必要がある。</p>	<p>【本校の最低規模】 1学年2学級以上</p> <p>○高等学校としての質を保障していくためには、生徒の多様なニーズに応え、集団活動による社会性の育成を図ることが大切であることから1学年2学級以上が必要。</p> <p>【分校の最低規模】 1学年1学級20人以上</p> <p>○本校や地域との連携による教育活動等にも取り組みながら、高等学校としての教育の質を維持していくためには、少なくとも1学年1学級20人以上が必要。</p>	<p>【特例校の最低規模】 1学年1学級20人以上</p> <p>・中山間地域の学校 本県の人口の偏りや地理的条件等を考慮し、過疎化が著しく近隣に他の高等学校がない学校は、地域の学びの機会を保障するために、特例として1学年1学級以上を最低規模として維持。その場合でも、高等学校における生徒の発達段階を考えると、高等学校としての教育の質を維持するための集団として、少なくとも1学級20人以上が必要。</p> <p>・生徒支援に対応した学校 不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟に対応できる支援体制を整えた学校については、1学年1学級以上を最低規模として維持。その場合でも、高等学校における生徒の発達段階を考えると、高等学校としての教育の質を維持するための集団として、少なくとも1学級20人以上が必要。</p>	<p>【定時制昼間部・多部制の最低規模】 1学年1学級20人以上</p> <p>○不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟に対応できる支援体制の特徴を生かしながら、高等学校としての教育の質を確保するための最低規模として1学年1学級20人以上とする。</p> <p>【定時制夜間課程・夜間部最低規模】 学校全体の生徒数20人以上</p> <p>○生徒一人一人に対応した支援ができる学校であるという観点から様々な学びを保障するため、学校全体の生徒数20人以上とし学校維持に努める</p>	なし	
島根県	666,331	6,707.9	99	293	2,951	本:35 分:1	3	2	10	0	1	<p>【望ましい学校規模】 ○都市部(松江市、出雲市)においては1学年4学級以上8学級以内を望ましい学校規模とする。 ・多様な学習ニーズに対応する選択幅のある教育課程 ・部活動や学校行事、生徒会活動等の充実 ・多くの個性や価値観に触れ、集団の中で社会性やたくましさや育う教育環境 ・同一教科で複数の教員配置が可能</p> <p>○その他地域においては、学校規模にのみこだわることなく、地元市町村及び地域の参画を得ながら協働して高校の魅力化・特色化を進めていくとともに、それぞれの取組の成果を検証し、より望ましい高校の在り方を島根県と地元市町村の間で共有する。</p>	<p>設定なし</p> <p>○離島・中山間の高校においては、近隣の高校と著しく距離が離れている高校が多く存在し、それらの地域の中学校卒業者の多くは、様々な事情により唯一の地元高校に進学するしかないという状況もある。そのことを踏まえ、学校規模にのみこだわることではない。</p>	設定なし	設定なし	なし	
鳥取県	551,806	3,507.14	157	240	2,439	本:22	4	2	8	0	1	<p>【標準的な学校の規模】 ・1学年あたり4学級から8学級程度 ・標準的な学校規模をもとに、将来見込まれる各学校への入学人数、地域の産業や人口の状況等を考慮し、総合的に勘案しながら決定。</p> <p>○生徒の多様なニーズに応え、個々の能力を最大限に伸ばすための教育課程の編成や学校行事、部活動等における学校の活力維持を考えると、学校の規模は一定の範囲を標準とすることが望ましい。</p>	設定なし	設定なし	設定なし	あり(4校)	
福井県	767,561	4,190.52	183	300	3,325	本:24	7	1	6	1	2	<p>「1学年4学級以上」にこだわらず、小規模となることが見込まれる高校においても、地元市町の密接な協力を得ながら各高校の魅力化・特色化をさらに進め、今後の社会の変化や地域の状況も踏まえた学科の在り方を検討しつつ、地域のためにできる限り存続させることが望ましい。</p> <p>○令和2年度「今後の県立高等学校の魅力化の方策について」答申において、平成20年の本答申では1学級当たりの生徒数は36人程度(職業系専門学科や定時制等においては30人程度)、1学年当たりの学級数は4学級～8学級を適正規模とし、少なくとも5学級～6学級の確保が望ましいとした。しかしながら、近年の全国的な状況も鑑み、上記のような適正規模とした。</p>	設定なし	設定なし	設定なし	あり(1校)	
徳島県	726,729	4,146.99	175	337	3,153	本:27 分:5	6	1	3	0	0	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	あり(1校)	
香川県	964,885	1,876.92	514	446	3,021	本:30	9	2	10	0	4	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	なし	
愛媛県	1,341,539	5,676.12	236	656	2,717	本:44 分:8	本:9 分:1	1	本:10 分:1	0	4	<p>1学年3学級～8学級</p> <p>○生徒の学びや進路の選択肢を確保するための多様な科目の開設、生徒の学校生活を充実させる活発な部活動や学校行事の展開、さらには将来につながる人的ネットワークの構築などのためには、一定規模の確保は必要との考えから、適正規模については3学級以上が適当であると、検討委員会において判断されたもの。</p>	設定なし	<p>【特例校(魅力化推進校)】 ・地域への配慮 適正規模の下限は3学級であるが、次の①または②に該当する県立高校等について、市町や地域から学校の存続のために必要と思われる支援が得られる県立高校等を、1市町につき1校に限り、特別の統廃合基準を適用する「魅力化推進校」に認定できる。 ① 同一市町内にある県立高校等が1校で、その1校が適正規模を下回る。 ② 同一市町内にある県立高校等が複数で、そのうち1校以上が適正規模を下回り、その県立高校等が、次のいずれかに該当する。 ・島しょ部にある県立高校等 ・教育委員会が特別に認める県立高校等</p>	設定なし	設定なし	なし

※学校数については、全日制と定時制が併置されている学校があるなど重複計上している場合がある。

※人口から県民所得までのデータは、総務省令和3年度都道府県財政指数表に基づく。学校数のデータは、文部科学省の令和5年度学校基本調査に基づく。その他のデータは、R5.10に高知県が行った全国調査に基づく。

全国の三部制高等学校の設置状況 (R5.10全国調査より)

○三部制高等学校の設置状況

	都道府県数	都道府県名
設置あり	28	北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、富山県、福井県、石川県、山梨県、長野県、静岡県、岐阜県、三重県、滋賀県、大阪府、奈良県、兵庫県、鳥取県、山口県、徳島県、福岡県、
設置なし	16	高知県、神奈川県、新潟県、愛知県、京都府、和歌山県、岡山県、島根県、香川県、愛媛県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
検討中	1	福島県
無回答	2	

(内訳)

都道府県	定時制の状況について	
	三部制の学校の設置状況 (検討中を含む)	三部制のメリット・デメリット (○メリット、●デメリット)
高知県	なし	—
北海道	1校 (北海道有朋高等学校)	○ライフスタイルに合わせた時間割作成が可能 ●なし
青森県	3校	○幅広い学びの機会の提供や、生徒の多様な学習ニーズへの対応、生徒一人一人の個性の伸長につながっていることが考えられる。 ●なし
岩手県	・3部制： 1校 (杜陵高等学校本校) ・2部制 (昼間部・夜間部)： 2校 (杜陵高等学校奥州校、 久慈高等学校長内校)	○生徒が仕事や生活環境等のライフスタイルに合わせて学ぶことができる。 ○所属する部以外の科目も併せて履修することにより、3年で卒業することも可能になる。 ●多部制を導入することにより、他の定時制高校よりも教員を多く要することから、県立全日制高校の小規模化が進み、県全体の教員定数が縮小する状況下において、教員配置が難しくなる。
秋田県	1校	○生徒の多様な実態に応じて、生徒が自分にとって適切な学びの時間帯を選択することができる。 ●勤務形態が多岐にわたるため、職員全体に対する連絡や連携の徹底が難しい。 ●夜間部の勤務終了時間が遅いため教員配置に配慮が必要である。
山形県	1校	○自分に合った学びのスタイルを選択し所属できるシステム ○課程間併修のしやすさ (I部はII部の授業を、II部はI部の授業を、III部はII部の授業を併修) ●体育館の使用が限定されること ●3部全体の職員会議の日程確保 ※I部 (午前の部) II部 (午後の部) III部 (夜間の部)
宮城県	1校 ※2部制は3校設置	○自分の生活スタイルや学習のペースに合わせた時間帯での学習が可能であることや他部の授業を履修できることなどが挙げられる。 ●教員の勤務時間帯の調整や、会議等の設定が難しいことがなどが考えられる。また、時間割の変更も難しいことから、出張等による不在時の課題監督の調整が難しい。
福島県	設置なし (検討中)	—
茨城県	3校 ・鹿島灘高等学校 ・茎崎高等学校 ・結城第二高等学校	○不登校経験者や中途退学経験者など多様な学習歴や生活歴を有する者に教育の機会を確保している。
栃木県	1校 (学悠館高)	○生活スタイルに応じた学習時間帯の選択による多様な学習ニーズへの対応
群馬県	1校 (太田フレックス高等学校)	○●多様な通学のニーズに対応できる一方、昼間部に希望が偏る傾向がある。
埼玉県	1校 (戸田翔陽高等学校)	○生徒のライフスタイルや学習ペースを尊重できる・教員の働き方の多様化につながる
千葉県	3校 ・松戸南高校 (H18設置) 募集学級数：午前3/午後3/夜間2 ※H24入学生より全日制募集停止 ・生浜高校 (H19設置) 募集学級数：午前2/午後2/夜間2 ※全日制 (2学級) を併置 ・佐倉南高校 (R4設置) 募集学級数：午前2/午後2/夜間1 ※全日制 (R3以前の入学生) 在籍中	○生徒の多様なニーズに応じており、志願倍率も高い。 ○他部履修により3年間で卒業が可能。 ●教員の勤務形態 (前勤・後勤) の制約により、会議の設定が困難 ●LHRや総合的な探究の時間、講演会等が全校一斉に実施できない。
東京都	あり	○自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて、三部の中から選んで学ぶことができる。
神奈川県	なし	—
新潟県	なし	—
富山県	3校 ・新川みどり野高等学校 ・雄峰高等学校 ・志貴野高等学校	○生徒の生活様式にあわせていつでも学べる ●地域によっては、夜間部をはじめ、登下校のための公共交通機関が限られる。

福井県	1校（道守高校普通科で午前コース、午後コース、夜間コースを設置）	○多様な生徒のニーズに合わせたコース選択が可能。
石川県	2校	○生徒が自分に合った時間帯を選ぶことができる。 ○定時併修（昼間部について午前部・午後部双方の授業の履修を認める）により、意欲のある生徒は3年間で卒業することも可能である。
山梨県	1校	○生徒の都合に合った時間帯を選べる。 ●教員の勤務が各部を跨ぐため、生徒の放課後の時間帯に面談等の指導やサポートができない。
長野県	2校 ・箕輪進修高校 ・松本筑摩高校	○自分にあった生活スタイルで学べる。 ●多部制単位制高校の理想は、他部の授業がとれるようになることだと思うが、それぞれの部で教育課程が違うため、他部の授業をとれるようにするために、かなりすり合わせが必要となる。
静岡県	現在の3校に加え、令和6年度にふじのくに国際高校が開校	○生徒の多様なニーズに応えられる。 ○セーフティネットとしての機能を果たすことができる。 ●県内に3校しかなく、生徒の居住する地域によっては通学の負担が大きい。
愛知県	なし	—
岐阜県	2校 ・華陽フロンティア高校 ・東濃フロンティア高校	○朝が苦手である生徒や夜に通学することに不安のある生徒のニーズに対応することができる。 ●教員の勤務体系が不規則になる。
三重県	3校 ・北星高等学校 ・みえ夢学園高等学校 ・伊勢まなび高等学校	○定時制課程のみで一定の規模を維持できるので、定時制課程における地域の拠点校として位置づけることが可能。 ○生徒の多様な学習スタイルに対応しやすい。（三修制の実施、午後登校を希望する生徒への対応、通級指導の実施等） ●教員の打合せ（職員会議含む）がしにくい。
滋賀県	1校（能登川高等学校） ※全日制：1限～6限 定時制昼間部：3限～8限 定時制夜間部：9限～12限	○定時制昼間部は、全日制の授業選択や部活動所属が可能であり、学校行事は全日制と合同開催している。多様な生徒の「学び合い」を通して、互いの人間性を高め、自己実現に向けて挑んでいく意欲を育むことができる。 ●1限～12限まで授業が行われているため、部活動や学校行事の実施に支障が出ることがある。
京都府	なし	—
大阪府	・多部制単位制Ⅰ部及びⅡ部 1校（Ⅰ部：午前、Ⅱ部：午後） ・昼夜間単位制 1校（昼夜間単位制：1限（10:50開始）～10限（21:05終了）の中から、自分の希望する時間帯で学習）	○不登校経験や障がい、他の高等学校からの転入学、編入学者や中学校時代に不登校を経験した生徒、全日制の課程になじめない生徒など様々な理由により、自分の生活スタイルやペースに合わせた高校就学を希望する生徒が、学ぶ時間帯や卒業までの期間を選択できる柔軟な教育システムを備えた昼間の高校として、大きな役割を果たしている。 ●メリットに記載の目的を果たすため、単位制高校として多様な科目を開講する必要があるが、定時制の課程に分類されるため、教職員定数の確保が課題。
奈良県	1校（大和中央高等学校：今年度からⅢ部夜間定時制は募集なし）	○●近年増えつつある不登校生徒など、必ずしも夜間に通う必然性のない生徒のニーズにも合っている。一方で、夜間は有職者が通いやすいように設置してきたが、徐々に志願者が減ってきたため、今年度からは夜間は廃止している。
兵庫県	4校 ・県立西宮香風高校 ・県立阪神昆陽高校 ・県立西脇北高校 ・県立飾磨工業高校（多部制）	○多部制単位制高等学校については、夜間定時制高等学校よりも、さらに自分のペースで柔軟に学べる。 ○全日制課程の中退退学者や不登校経験者に加え、外国籍の生徒や特別な支援を必要とする生徒など、多様な生徒に対応している。
和歌山県	なし	—
岡山県	なし	—
鳥取県	4校	—
島根県	なし	—
山口県	1校（山口松風館高校）	○多様な生活スタイルに応じて、学習時間帯が選択できる。 ○学校規模が確保でき、多様な教育活動に取組やすい。 ○一つの学校で併修が可能となり、3年修業に取り組みやすい。 ●生徒にとってのデメリットは、考えられない。
香川県	なし	—
愛媛県	なし	—
徳島県	1校	○ライフスタイルに合わせた時間帯の選択ができる ●3部制により時間帯での施設の利用制限がある
福岡県	4校	○3部制の定時制高校は単位制高校となっていることから、進路希望に応じた時間割編成が可能となる。また留年という概念がないため、個々の生徒のペースでの修学が可能となる。 ●単位制であるため、学級学年集団がなく単位修得や授業出席が生徒個人の意欲に大きく影響される。（集団での学習意欲向上が見込みにくい）
佐賀県	なし	—
長崎県	なし	—
熊本県	なし	—
宮崎県	なし	—
鹿児島県	なし	—
沖縄県	なし	—

第3期教育等の振興に関する施策の大綱の基本理念と基本目標 (案)

参考資料1

目指す人間像
(基本理念)

- ◆ 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人
- ◆ 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人
- ◆ 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人



目指す人間像(基本理念)を実現することで、個人が持続的に幸せを感じ、また、地域や社会もよい状態が続く「ウェルビーイング(Well-being)」の実現にもつながる。

人と心と未来を
つなぐ
「高知家」の教育

目指す人間像を実現するための基本目標と、それを測るための測定指標

基本目標1

確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開

社会に出て自らの夢や志を実現していくための基礎となる知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育む。

【義務教育段階】：学習の基盤となる資質・能力の確実な育成を図る。

(測定指標)

- 全国学力・学習状況調査(小学6年、中学3年)において、
 - 小学校の学力は全国平均を継続的に1ポイント以上上回る。
 - 中学校の学力は全国平均に引き上げる。
- <小学校>D層の児童の割合は全国の割合を継続的に下回る。
- <中学校>D層の生徒の割合は全国の割合まで引き下げる。

【高等学校段階】：社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力を育む。

※進路決定の指標は、全日制・定時制・通信制の生徒
その他の指標は、全日制と定時制昼間部の生徒が対象

(測定指標)

- 県調査において、
 - 学力定着把握検査(高校2年)におけるC層以上の生徒の割合を65%以上とする。
 - 高校卒業時に進路を決定して卒業する生徒の割合を97%以上とする。
 - 高校3年で「自分の可能性を広げるために勉強を頑張っている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。

基本目標2

健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着

生涯にわたって、たくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣を育む。

(測定指標) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小学5年、中学2年)において、

- 小・中学校の体力合計点は、継続的に全国平均を上回る。平成30年度の全国平均値まで改善させる。
- 総合評価でDE群の児童生徒の割合を、平成30年度の全国平均値まで改善させる。
- 「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」と思う生徒の割合が継続的に全国平均を上回る。

(測定指標) 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査(小学6年、中学3年)において、

- 規則正しい睡眠や食事などの基本的な生活習慣に関する項目の肯定的割合が全国平均を上回る。
 - ・ 「朝食を毎日食べる」と回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。
 - ・ 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。
 - ・ 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。



©やなせたかし/スタジオ

基本目標 3

豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進

社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、自尊感情、夢や志、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む。
また、「不登校」については、決して問題行動ではないことを前提として、「魅力ある学校づくり」「早期発見・早期支援」「多様な教育機会の確保」による支援を行う。

(測定指標) 【義務教育段階】

児童生徒質問紙調査（小学6年、中学3年）において、

- 道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。
「自分には、よいところがあると思う」
「将来の夢や目標を持っている」
「人が困っているときは、進んで助けている」
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」

(測定指標) 【高等学校段階】

※指標は、全日制・多部制昼間部の生徒が対象

県調査（高校3年）において、

- 道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。
「自分という存在を大切に思える」
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」
「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」

(測定指標) 児童生徒問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（国公私立）において、

- 生徒指導上の諸課題（いじめ、暴力行為）の状況を改善させる。
 - ・いじめの解消率を全国平均以上にする。〔参考値：いじめの認知件数〕
 - ・暴力行為の発生件数を全国平均まで引き下げる。

(測定指標) 児童生徒問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（国公私立）において、

- 不登校について、
 - ・1,000人あたりの新規不登校児童生徒数を全国平均以下とする（小・中・高）。〔参考値：不登校児童生徒数〕
 - ・不登校児童生徒のうち、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けている割合を向上させる（小・中・高）。

「目指す人間像」を 実現するための基本目標

健やかな体の育成
基本的な生活習慣
の定着



確かな学力の育成
自己の将来とのつながりを見通した学びの展開



豊かな心の育成
多様性・包摂性を
尊重する教育の推進

次期教育等の振興に関する施策の大綱の施策体系 (案)

～人と心と未来をつなぐ「高知家」の教育～

資料 4

No.	基本方針	No.	政策	No.	施策	No.	施策を実現するために実施する各取組・事業	担当課	新
I	「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身に付けるための教育の推進	【1】	個別最適・協働的な学びの一体的充実に向けた、授業づくりの推進	a. (1)	授業改善サイクルの確立・授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化 (義務教育段階)	1	【新】「令和の授業を創る」推進プロジェクト	小中	○
						2	デジタル技術を活用した個別最適・協働的な学びの充実	小中	
						3	学習支援プラットフォームの活用促進	教政	
						4	中学校の授業改善サイクルの強化・充実	小中	
						5	理科教育推進プロジェクト	小中	
						6	英語教育強化プロジェクト	小中	
						7	学力向上に向けた高知市との連携	小中	
						8	放課後等における学習支援事業	小中	
						9	学力向上推進事業	高等	
				b. (2)	授業改善サイクルの確立・授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化 (高等学校段階)	10	「指導と評価の一体化」の促進	高等	
						11	マネジメント強化事業	高等	
						12	【新】デジタル技術を活用した個別最適・協働的な学びの充実	高等	○
						再3	学習支援プラットフォームの活用促進	教政	
						13	学習支援員事業	高等	
						14	小・中・高等学校におけるキャリア教育の推進	高等・小中	
						15	小・中・高等学校における「キャリア・パスポート」の活用推進	高等・小中	
						後20	就職支援対策事業	高等	
						16	キャリアアップ事業	高等	
		【2】	社会とつながるキャリア教育・職業教育の推進と、それを前提とした進路指導の充実	a. (3)	体系的なキャリア教育・職業教育の推進	17	遠隔オンラインによるキャリア教育講演会	教セ	
						18	【新】特別支援学校における地域と協働したキャリア教育推進事業	特支	○
						19	産業教育指導力向上事業	高等	
						再14	小・中・高等学校におけるキャリア教育の推進	高等・小中	
						再15	小・中・高等学校における「キャリア・パスポート」の活用推進	高等・小中	
						再16	キャリアアップ事業	高等	
						20	就職支援対策事業	高等	
						21	21ハイスクールプラン (資格取得の推進)	高等	
						22	【新】資格取得の推進 (遠隔教育の活用)	教セ	○
				再17	遠隔オンラインによるキャリア教育講演会	教セ			
				b. (4)	多様な進路希望等に応じた進路指導・就労支援の充実	23	ふるさとを支える教育の推進	小中	
						再14	小・中・高等学校におけるキャリア教育の推進	高等・小中	
						後43	道徳教育の推進	高等	
						24	県内文化施設の活用促進	小中	
						25	グローバル教育推進事業	振興	
						再6	英語教育強化プロジェクト	小中	
						26	総合的な学習の時間の充実	小中	
						27	地域協働学習の推進	高等	
		28	【新】生徒の自発的・自治的な活動 (特別活動) の充実			高等	○		
		【3】	高知県や我が国の伝統・歴史・文化等を学ぶとともに、グローバル社会で活躍する人材を育成	a. (5)	地域や日本の伝統・歴史・文化等の教育の促進	29	【新】次世代総合教育会議の開催	教政	○
						30	【新】主権者教育・消費者教育の充実	小中	○
						31	生徒の社会的自立・社会参画のための支援	高等	
						32	環境教育の推進	高等ほか	
						33	【新】情報活用能力の育成	高等・小中	○
						34	学校図書館を活用した言語能力・情報活用能力の育成	小中	
						再5	理科教育推進プロジェクト	小中	
						35	ICT活用力向上事業	小中	
						36	【新】STEAM教育及びその核となる理数教育の充実・強化	高等	○
				b. (6)	グローバル教育の推進・強化	37	高大連携による次世代のデジタル社会に対応した教育の充実	高等	
						38	教科「情報」教育の充実	高等	
						再16	キャリアアップ事業	高等	
						39	【新】起業家教育の実施	高等	○
						40	「科学の甲子園」(高知県大会)の開催	高等	
						41	高知みらい科学館運営事業	生涯	
						42	道徳教育実践力向上プラン	小中	
						43	道徳教育の推進	高等	
						44	人権教育推進事業	人権	
		【4】	主体的に社会参画を行い、社会的な課題解決等に取り組んでいく人材を育成	a. (7)	児童生徒が自ら課題を探究し、多様な人と協働しながら、課題を解決・提案する主体性等の育成	後84	子どもの自己実現を支える魅力ある学校づくり (高知夢いっぱいプロジェクト推進事業)	人権	
						45	生徒指導主事 (担当者) の組織マネジメント力向上	人権	
						46	保幼小中連携モデル地域実践研究事業	人権・幼保	
						47	【新】生徒の声をいかした校則見直し等の取組の推進	人権・高等	○
						48	【新】SOSの出し方に関する教育	人権	○
						後51	いじめ防止対策等総合推進事業	人権	
						49	関係機関と連携した未然防止の取組の推進	人権	
						50	学校の相談支援体制の強化 (スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等活用事業)	人権	
						51	いじめ防止対策等総合推進事業	人権	
				b. (8)	現代的諸課題や制度・仕組み等を体系的に学び、社会参画を図るうえでの基礎的基盤を育成	52	校内の組織的な支援体制の充実	心セ	
						53	体力づくり推進事業	保体	
						54	運動部活動の運営の適正化	保体	
						55	【新】いのちの教育プロジェクト	保体	○
						56	基本的な生活習慣向上事業	幼保	
						後69	親育ち支援啓発事業	幼保	
						57	食育推進支援事業	保体	
						後122	家庭教育支援基盤形成事業	生涯	
						後182	PTA活動振興事業	生涯	
		【5】	自尊感情や他者への思いやりを育み、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現の両立を図るための教育の推進・指導強化	a. (10)	規範意識や自尊感情などの育むための道徳教育の推進	58	【新】「高等学校再編振興計画」次期計画の検討	振興	○
						59	地域教育魅力化ネットワーク事業	振興	
						60	地域教育魅力化プロモーション事業	振興	
						61	高知県教育振興施設整備事業費交付金事業	振興	
						62	遠隔教育推進事業	教セ	
						再36	【新】STEAM教育及びその核となる理数教育の充実・強化	高等	○
						63	公立高等学校入学選抜制度の検証と見直し	高等	
						64	園内研修支援事業	幼保	
						65	園評価支援事業	幼保	
				b. (11)	自分の大切さとともに他の人の大切さを認める人権教育の推進	66	保育者基本研修	幼保・教セ	
						後166	保育士等人材確保事業	幼保	
						後76	就学前教育・保育における特別な支援を要する子どもへの対応力の向上	幼保	
						67	【新】幼児教育普及啓発事業	幼保	○
						68	保幼小連携・接続推進支援事業	幼保	
						後46	保幼小中連携モデル地域実践研究事業	人権・幼保	
						後111	親育ち・特別支援保育コーディネーターの配置	幼保	
						後112	スクールソーシャルワーカー活用事業 <就学前>	幼保	
						69	親育ち支援啓発事業	幼保	
		【6】	生涯にわたる心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの充実	c. (12)	児童生徒が自発的・自主的に自らを発達させるよう指導・支援する発達支持的生徒指導の推進	70	親育ち支援保育者スキルアップ事業	幼保	
						後56	基本的な生活習慣向上事業	幼保	
						再69	親育ち支援啓発事業	幼保	
						71	【新】高等学校再編振興計画」次期計画の検討	振興	○
						72	地域教育魅力化ネットワーク事業	振興	
73	地域教育魅力化プロモーション事業					振興			
74	高知県教育振興施設整備事業費交付金事業					振興			
75	遠隔教育推進事業					教セ			
再36	【新】STEAM教育及びその核となる理数教育の充実・強化					高等	○		
d. (13)	今後の高知県や日本のイノベーションを担うための教育の充実			76	公立高等学校入学選抜制度の検証と見直し	高等			
				77	園内研修支援事業	幼保			
				78	園評価支援事業	幼保			
				79	保育者基本研修	幼保・教セ			
				後166	保育士等人材確保事業	幼保			
				後76	就学前教育・保育における特別な支援を要する子どもへの対応力の向上	幼保			
				67	【新】幼児教育普及啓発事業	幼保	○		
				68	保幼小連携・接続推進支援事業	幼保			
				後46	保幼小中連携モデル地域実践研究事業	人権・幼保			
【7】	今後の社会を見据えた高等学校改革	a. (19)	「高等学校再編振興計画」の次期計画の検討	80	親育ち支援保育者スキルアップ事業	幼保			
				81	基本的な生活習慣向上事業	幼保			
				再69	親育ち支援啓発事業	幼保			
				82	地域教育魅力化ネットワーク事業	振興			
				83	地域教育魅力化プロモーション事業	振興			
				84	高知県教育振興施設整備事業費交付金事業	振興			
				85	遠隔教育推進事業	教セ			
				再36	【新】STEAM教育及びその核となる理数教育の充実・強化	高等	○		
				86	公立高等学校入学選抜制度の検証と見直し	高等			
		b. (20)	高等学校のさらなる魅力化を推進するための環境整備と情報発信	87	園内研修支援事業	幼保			
				88	園評価支援事業	幼保			
				89	保育者基本研修	幼保・教セ			
				後166	保育士等人材確保事業	幼保			
				後76	就学前教育・保育における特別な支援を要する子どもへの対応力の向上	幼保			
				67	【新】幼児教育普及啓発事業	幼保	○		
				68	保幼小連携・接続推進支援事業	幼保			
				後46	保幼小中連携モデル地域実践研究事業	人権・幼保			
				後111	親育ち・特別支援保育コーディネーターの配置	幼保			
c. (21)	入学選抜の改革	90	親育ち支援保育者スキルアップ事業	幼保					
		91	基本的な生活習慣向上事業	幼保					
		再69	親育ち支援啓発事業	幼保					
		92	地域教育魅力化ネットワーク事業	振興					
		93	地域教育魅力化プロモーション事業	振興					
		94	高知県教育振興施設整備事業費交付金事業	振興					
		95	遠隔教育推進事業	教セ					
		再36	【新】STEAM教育及びその核となる理数教育の充実・強化	高等	○				
		96	公立高等学校入学選抜制度の検証と見直し	高等					
【8】	就学前教育・保育の質の向上	a. (22)	保育所保育指針・幼稚園教育要領等を踏まえた就学前教育・保育の充実	97	園内研修支援事業	幼保			
				98	園評価支援事業	幼保			
				99	保育者基本研修	幼保・教セ			
				後166	保育士等人材確保事業	幼保			
				後76	就学前教育・保育における特別な支援を要する子どもへの対応力の向上	幼保			
				67	【新】幼児教育普及啓発事業	幼保	○		
				68	保幼小連携・接続推進支援事業	幼保			
				後46	保幼小中連携モデル地域実践研究事業	人権・幼保			
				後111	親育ち・特別支援保育コーディネーターの配置	幼保			
		b. (23)	保幼小の円滑な連携・接続の推進	100	親育ち支援保育者スキルアップ事業	幼保			
				101	基本的な生活習慣向上事業	幼保			
				再69	親育ち支援啓発事業	幼保			
				102	地域教育魅力化ネットワーク事業	振興			
				103	地域教育魅力化プロモーション事業	振興			
				104	高知県教育振興施設整備事業費交付金事業	振興			
				105	遠隔教育推進事業	教セ			
				再36	【新】STEAM教育及びその核となる理数教育の充実・強化	高等	○		
				106	公立高等学校入学選抜制度の検証と見直し	高等			
【9】	親育ち支援の充実	a. (24)	保育者の親育ち支援力の向上	107	園内研修支援事業	幼保			
				108	園評価支援事業	幼保			
				109	保育者基本研修	幼保・教セ			
				後166	保育士等人材確保事業	幼保			
				後76	就学前教育・保育における特別な支援を要する子どもへの対応力の向上	幼保			
				67	【新】幼児教育普及啓発事業	幼保	○		
				68	保幼小連携・接続推進支援事業	幼保			
				後46	保幼小中連携モデル地域実践研究事業	人権・幼保			
				後111	親育ち・特別支援保育コーディネーターの配置	幼保			
		b. (25)	保護者の子育て力向上のための支援の充実	110	親育ち支援保育者スキルアップ事業	幼保			
				111	基本的な生活習慣向上事業	幼保			
				再69	親育ち支援啓発事業	幼保			
				112	地域教育魅力化ネットワーク事業	振興			
				113	地域教育魅力化プロモーション事業	振興			
				114	高知県教育振興施設整備事業費交付金事業	振興			
				115	遠隔教育推進事業	教セ			
				再36	【新】STEAM教育及びその核となる理数教育の充実・強化	高等	○		
				116	公立高等学校入学選抜制度の検証と見直し	高等			

No.	基本方針	No.	政策	No.	施策	施策を実現するために実施する各取組・事業							
						No.	担当課	新					
II	「高知家」の子ども誰一人取り残さず、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進	【1】	切れ目のない特別支援教育の推進	a. (26)	インクルーシブ教育の推進	71	【新】インクルーシブ教育の推進のための環境整備推進事業	特支	○				
						72	特別支援学校の児童生徒の居住地校交流実践充実事業	特支					
						73	特別支援教育セミナー	教セ					
						74	特別支援学校の教育内容充実事業	特支					
						75	特別支援学校の専門性向上事業	特支					
						再18	【新】特別支援学校における地域と協働したキャリア教育推進事業	特支	○				
						76	就学前教育・保育における特別な支援を要する子どもへの対応力の向上	幼保					
						77	【新】小中学校等における多様な学びの場の連続性を実現する特別支援教育の推進	特支	○				
						78	校種間の確実な引き継ぎの実施	特支					
						79	特別支援学級における教育の質の向上に向けた取組強化	特支					
		80	高等学校における特別支援教育の推進	特支									
		再73	特別支援教育セミナー	教セ									
				d. (29)	医療的ケア児に対する支援の充実	81	医療的ケア児に対する支援の充実	特支・幼保					
				【2】	重層的な支援体制の整備・強化による不登校対策の推進	a. (30)	魅力ある学校づくりの推進	82	不登校に対する組織的な取組の推進（学力向上のための学校経営力向上支援事業・組織力向上推進事業）	小中			
		83	児童生徒の自尊感情や人間関係を築く力の育成					高等					
		再70	親育ち支援担当者や小学校との連携を図る取組の推進（親育ち支援保育者スキルアップ事業）					幼保					
		84	子どもの自己実現を支える魅力ある学校づくり（高知夢いっぱいプロジェクト推進事業）					人権					
		再45	生徒指導主事（担当者）の組織マネジメント力向上					人権					
		後46	保幼小中連携モデル地域実践研究事業					人権・幼保					
		再44	人権教育推進事業					人権					
		85	児童生徒理解に基づいた学級・HR経営力や組織マネジメント力等の向上					教セ					
		後92	学校の相談支援体制の強化（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等活用事業）					人権					
		86	不登校担当者を中心とした早期発見・早期対応の組織的な取組の推進（個別最適な支援をつなぐ校区内連携事業）					人権					
				b. (31)	早期発見・早期支援の実施	87	児童生徒や保護者が利用しやすい相談環境づくり（心の教育センター相談支援事業）	心セ					
						88	【新】早期発見・早期支援のためのシステム運用・周知	教政	○				
						89	特別な支援が必要な児童生徒への適切な支援の充実	特支					
						再51	いじめ防止対策等総合推進事業	人権					
						c. (32)	多様な教育機会の確保	90	多様な学習の場の充実や機会の確保に向けた支援（不登校支援推進プロジェクト事業）	人権			
								91	不登校児童生徒の多様な教育機会確保に向けた検討	人権			
								後123	放課後等における子どもたちの安全・安心な居場所づくりや学びの場の充実（新・放課後子ども総合プラン推進事業）	生涯			
						a. (33)	多様な背景を持つ児童生徒の早期発見	後92	学校の支援力の向上（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー活用事業）	人権			
						b. (34)	専門家や関係機関と連携した組織的な支援体制の充実	92	学校・S S Wと市町村福祉部署との連携強化（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー活用事業）	人権			
				【3】	虐待や貧困、ヤングケアラー等の家庭的な事情等による多様な背景を持つ児童生徒の早期発見、組織的な対応			93	就学援助制度活用の周知	小中			
								94	高等学校等就学支援金事業	高等			
								95	高校生等奨学給付金事業等	高等			
								96	多子世帯保育料軽減事業	幼保			
						d. (38)	私立学校に通う児童生徒の保護者の経済的負担の軽減	97	私立学校に通う児童生徒の保護者の経済的負担の軽減	私学			
				【4】	教育費負担の軽減に向けた経済的な支援	a. (35)	就学援助の活用についての周知	93	就学援助制度活用の周知	小中			
						b. (36)	高等学校等就学支援金事業、高校生等奨学給付金事業等の実施、周知	94	高等学校等就学支援金事業	高等			
								95	高校生等奨学給付金事業等	高等			
						c. (37)	多子世帯保育料軽減事業の実施	96	多子世帯保育料軽減事業	幼保			
								97	私立学校に通う児童生徒の保護者の経済的負担の軽減	私学			
						【5】	地域間格差を解消し、中山間地域等をはじめとした各地域において魅力ある教育を実施	a. (39)	地域間格差を解消するための学びの支援	98	小規模校における学習指導の充実	小中	
										再8	放課後等における学習支援事業	小中	
										99	免許外指導担当教員支援事業	教セ	
										再62	遠隔教育推進事業	教セ	
										再59	地域教育魅力化ネットワーク事業	振興	
								再60	地域教育魅力化プロモーション事業	振興			
								再61	高知県教育振興施設整備事業費交付金事業	振興			
								再62	遠隔教育推進事業	教セ			
								100	教育版「地域アクションプラン」推進事業	教政			
								a. (41)	夜間中学の充実、広報周知	101	夜間中学の充実、広報・周知	高等	
						b. (42)	若者の学び直しと自立支援	102	若者の学びなおしと自立支援事業	生涯			
						c. (43)	高等学校定時制・通信制課程の質の確保・向上	103	定時制教育の充実	高等			
						d. (44)	外国人児童生徒等に対する日本語教育の推進	104	公立学校における受入体制の整備及び支援	小中・高等			
								105	日本語指導教員等の資質・能力の向上に向けた支援	小中・教セ			
								106	就学機会の確保に向けた支援	高等			
								107	【新】児童生徒の能力・関心に応じた柔軟な授業づくりの推進	小中	○		
								108	【新】認知・発達特性等により、学習上・学校生活上の困難を抱える児童生徒への対応	特支	○		
								再91	多様な学習の場や機会の確保に向けた支援	人権			
				【6】	多様な児童生徒や若者が学ぶことができる機会の保障と自立支援			109	多機能型保育支援事業	幼保			
								110	保育サービス促進事業（家庭支援推進保育士の配置）	幼保			
								再81	医療的ケア児に体する支援の充実	幼保			
								111	親育ち・特別支援保育コーディネーターの配置	幼保			
								112	スクールソーシャルワーカー活用事業<就学前>	幼保			
								再76	就学前教育・保育における特別な支援を要する子どもへの対応	幼保			
								113	【新】地域子ども・子育て支援事業	幼保	○		
								再96	多子世帯保育料軽減事業	幼保			
								後166	保育士等人材確保事業	幼保			
						【7】	多様な保育サービスの充実	a. (46)	子どもや子育て家庭のニーズに応じた支援	109	多機能型保育支援事業	幼保	
										110	保育サービス促進事業（家庭支援推進保育士の配置）	幼保	
										再81	医療的ケア児に体する支援の充実	幼保	
										111	親育ち・特別支援保育コーディネーターの配置	幼保	
										112	スクールソーシャルワーカー活用事業<就学前>	幼保	
										再76	就学前教育・保育における特別な支援を要する子どもへの対応	幼保	
										113	【新】地域子ども・子育て支援事業	幼保	○
										再96	多子世帯保育料軽減事業	幼保	
										後166	保育士等人材確保事業	幼保	

No.	基本方針	No.	政策	No.	施策	施策を実現するために実施する各取組・事業		担当課	新				
						No.	事業						
Ⅲ	「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができ、環境づくりと活動・取組の推進	【1】	共に学び支え合う生涯学習・社会教育の推進	a. (47)	全ての県民が生涯にわたって学び、学びを生かす機会と環境の充実	114	生涯学習活性化推進事業	生涯					
						再41	高知みらい科学館運営事業	生涯					
						115	志・とさ学びの日推進事業	教政・生涯					
						116	社会教育振興事業	生涯					
						117	青少年教育施設の整備	生涯					
		b. (48)	学びを育む体験活動の推進	118	学びを育む体験活動の推進	生涯							
				後181	地域学校協働活動推進事業	生涯							
		【2】	オーテピア高知図書館を核とした県民の読書環境・情報環境の充実	a. (49)	オーテピア高知図書館を核とした県民の読書環境・情報環境の充実	119	図書館活動事業	生涯					
						120	読書活動推進事業	生涯					
						121	学校司書の配置、学校図書館の整備充実	小中・高等					
		【3】	家庭教育支援の充実	a. (50)	家庭教育支援の充実	122	家庭教育支援基盤形成事業	生涯					
						再69	親育ち支援啓発事業	幼保					
		【4】	放課後等における子どもたちの安全・安心な居場所づくりや学びの場の充実	a. (51)	放課後等における子どもたちの安全・安心な居場所づくりや学びの場の充実	123	新・放課後子ども総合プラン推進事業	生涯					
		【5】	私立学校の振興	a. (52)	私立学校の教育環境の維持・向上に向けた支援	124	学校経営の健全化・特色ある学校づくりへの支援	私学					
						125	【新】教員の指導力・人権意識の向上への支援	私学	○				
						126	児童生徒が安心して教育を受けられる環境整備の推進	私学					
		【6】	大学の魅力向上	a. (53)	地域活性化の核となる大学づくりの推進	127	地域活性化の核となる大学づくりの推進	私学					
						128	学び続けることができる社会の実現に向けた学び直しの機能の充実	私学					
						129	若者の県内定着の促進	私学					
						130	県立文化施設への来館機会の充実	文国・歴史					
		【7】	県民一人ひとりが文化芸術に親しむ環境づくりの推進	a. (54)	県立文化施設への来館機会の充実	131	県立文化施設における教育普及活動の推進	文国・歴史					
						b. (55)	文化芸術に親しむ機会の充実	132	【新】文化芸術に親しむ機会の提供と文化芸術活動への支援	文国	○		
		【8】	文化財の保存・活用	a. (56)	文化財の保存と活用の推進	133	文化財の保存・整備への支援	歴史					
						134	【新】伝統的な祭り・民俗芸能の振興	歴史	○				
						135	高知城の保存管理と整備	歴史					
						136	埋蔵文化財の発掘調査と保存・活用	歴史					
						137	【新】四国遍路の世界遺産登録を目指した取組の推進	歴史	○				
						138	【新】歴史資料の調査と記録収集	歴史	○				
						139	【新】地域の歴史研究を担う人材の育成	歴史	○				
						140	【新】調査成果の広報と学校等での活用	歴史	○				
		【9】	スポーツの振興	a. (58)	スポーツ参加の拡大	141	子どものスポーツ環境の整備	スポ					
						142	障害者スポーツの推進	スポ					
						b. (59)	競技力の向上	143	競技スポーツ選手の育成強化	スポ			
								144	指導者の育成	スポ			
								145	スポーツ医学の推進	スポ			
						c. (60)	スポーツを通じた活力ある県づくり	146	スポーツ大会の開催・合宿の誘致	スポ			
								147	スポーツを通じた国際交流	スポ			
		Ⅳ	「高知家」の教育・学びの充実に向けた各種施策を総合的・計画的に推進するために、必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備	【1】	教育公務員としての自覚と遵法意識の徹底及び教職員としての資質・能力の向上	a. (61)	教職員の不祥事の防止強化と、発生した場合の対応体制の強化	148	【新】教職員の不祥事の防止策及び発生時の適切・迅速な対応体制の確立	教福ほか	○		
								b. (62)	教員育成指標等を踏まえた各段階における教職員の教科指導・生徒指導・学校運営等の対応力向上に向けた体系的な研修の実施	149	採用候補者への啓発（採用前研修）	教セ	
										150	若年教員育成プログラム	教セ	
										151	中堅期以降の研修の充実	教セ	
										152	【新】次世代リーダー育成研修 高知「志」塾	教セ	○
										153	管理職等育成プログラム	教セ	
										154	教員のICT活用指導力の向上	教セほか	
										155	教育事務職員研修の充実	教セ	
										156	学校の力を高める中核人材育成事業	教政	
										【2】	「学校における働き方改革」、「チーム学校の推進・強化」、「教員等の人材確保に向けた取組」の一体的推進	a. (63)	学校におけるワークライフバランスを確保した働き方改革の推進
158	業務の効率化・削減			教福ほか									
159	【新】若年教職員へのサポート体制の充実			教福ほか	○								
後178	校務支援システム等を活用した業務効率化			教政									
後179	【新】校務効率化ツール等の導入促進			教政ほか	○								
160	教員業務支援員配置事業			教福									
再92	学校の相談支援体制の強化（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等活用事業）			人権									
後183	【新】部活動改革の取組推進			保体・小中	○								
161	学校事務体制の強化			教福									
b. (64)	校長の主導のもと、全ての教職員が「自分事」として参画し、かつ、学校内外のリソースを効率的に活用した学校組織体制・経営体制の強化（義務教育段階）			162	学力向上のための学校経営力向上支援事業	小中							
				163	組織力向上推進事業	小中							
				再180	コミュニティ・スクールの充実	小中							
				c. (65)	校長の主導のもと、全ての教職員が「自分事」として参画かつ、学校内外のリソースを効率的に活用した学校組織体制・経営体制の強化（高等学校段階）	再11	学校経営計画の充実（マネジメント力強化事業）	高等					
						164	主幹教諭の配置による組織力強化	高等					
						再21	21ハイスクールプラン	高等					
				再180	コミュニティ・スクール導入推進及び充実	高等							
d. (66)	教員等人材の確保に向けた取組の促進			165	教職員の採用、確保及び教員採用審査方法、教職や学校の魅力発信の推進	教福							
				166	保育士等人材確保事業	幼保							
e. (67)	教職員のメンタルヘルス対策			167	【新】教職員のメンタルヘルス対策	教福	○						
				168	【新】県立学校体育館への空調整備	学安	○						
【3】	児童生徒・教職員にとって、安全・安心で、円滑な教育活動等が展開できる環境整備や機運醸成			a. (68)	学校施設等の耐震化、防災対策の促進	169	保育所・幼稚園等の高台移転、高層化への支援	幼保					
						170	保育所・幼稚園等の事業継続計画（BCP）の策定	幼保					
						再117	青少年教育施設の整備	生涯					
				b. (69)	学校施設等の長寿命化改修や、省エネルギー化、バリアフリー化等の実施	171	学校施設の長寿命化対策	学安					
						再117	青少年教育施設の整備	生涯					
				c. (70)	学校等の防犯対策	172	不審者侵入対策を含めた安全教育・安全管理体制の充実	学安					
						再123	新・放課後子ども総合プラン推進事業	生涯					
						173	地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業	学安					
				d. (71)	登下校の安全対策の促進	174	自転車ヘルメット着用推進事業	学安					
						175	保育所・幼稚園等の安全対策の強化	幼保					
e. (72)	防災教育の推進			176	防災教育推進事業	学安							
				再123	新・放課後子ども総合プラン推進事業	生涯							
f. (73)	ICT・デジタル環境の整備、校務DXの推進			177	学校のICT環境整備	教政ほか							
				178	校務支援システム等を活用した業務効率化	教政							
				179	【新】校務効率化ツール等の導入促進	教政ほか	○						
				再3	学習支援プラットフォームの活用促進	教政							
【4】	学校と、様々な関係者として連携・協働して、取組促進や課題解決を図る仕組みの展開・強化			a. (74)	コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進	180	コミュニティ・スクールの導入推進及び充実	小中ほか					
						181	地域学校協働活動推進事業	生涯					
		182	PTA活動振興事業			生涯							
c. (76)	部活動の地域連携・地域移行に向けた取組の推進	183	【新】部活動改革の取組推進	保体・小中	○								

高知県中山間地域再興ビジョン (素案)

高知県
令和5年(2023年)12月

この素案は現時点の案であり、
今後のご意見等を踏まえて内容
の修正を検討してまいります。

目次

I ビジョン策定の趣旨等

- 1 策定の趣旨
- 2 ビジョンの位置づけ
- 3 ビジョンの構成
- 4 計画期間
- 5 対象地域

II 中山間地域の現状と課題

- 1 これまでの中山間対策
- 2 現状と課題
 - (1) 人口減少
 - (2) 暮らし
 - (3) 地域の活力
 - (4) しごと
 - (5) デジタル技術の活用

III 新たな中山間対策～中山間地域再興ビジョンの推進～

- 1 基本的な考え方
- 2 10年後の将来ビジョン
 - (1) 10年後に目指す将来像
 - (2) 挑戦すべき重要な目標
 - (3) テーマごとの10年後の姿と数値目標
 - ・柱1 若者を増やす
 - 第1策 若者の定着・増加と人づくり
 - ・柱2 暮らしを支える
 - 第2策 生活環境づくり
 - 第3策 安全・安心の確保
 - ・柱3 活力を生む
 - 第4策 集落の活性化

- 第5策 地域の伝統的な祭りや民俗芸能の維持・継承・活用
- ・柱4 しごとを生み出す

- 第6策 基幹産業の振興と地域資源を活用した付加価値の高い産業の創出

- 第7策 起業等によるしごとの創出

- ・横串 デジタル技術の活用

- 第8策 デジタル技術の活用

- 3 将来ビジョンの実現に向けた4年間の行動計画（アクションプラン）

- アクションプランの取り組み内容
- 主要なアクションプラン一覧

IV ビジョンの推進

- 1 連携・協働によるビジョンの推進
- 2 ビジョンの推進体制

【巻末参考】

- 10年後の数値目標に係る指標
- 高知県中山間地域再興ビジョンとSDGsの対応表

<別冊> アクションプラン一覧【KPI付き】

I ビジョン策定の趣旨等

1 策定の趣旨

- 高知県は県土の約9割を中山間地域が占め、そこに県民の約4割が暮らしています。
- 本県の基幹産業である農林水産業などの多くは中山間地域で生まれ、海、山、川などの「豊かな自然」や「文化」の多くも中山間地域に存在しています。加えて、水源かん養や防災など国土保全の面でも、また、憩いや癒やしの場としても重要な役割を果たしており、中山間地域は本県の強みの源泉です。
- そのため、県では、平成24年度から中山間対策を抜本強化し、「中山間地域の振興なくして県勢浮揚なし」との考えの下、集落の維持再生や生活水の確保、鳥獣被害対策のほか、産業・医療・福祉などの幅広い分野で、様々な施策を推進してきました。
- こうした取り組みの結果、住民主体の日々の助け合いや地域資源を活用した経済活動などを行う集落活動センターが県内66カ所に整備されたほか、鳥獣被害額の減少や、産業振興計画の地域アクションプランの取り組みにより1,971人（平成21～令和4年度の累計）の雇用を創出するなど、一定の成果が現れています。
- しかしながら、依然として人口減少や少子高齢化には歯止めがかからず、中山間地域を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。
- また、令和3年度に県が実施した「集落实態調査」の結果からは、地域や産業の担い手不足がより深刻化し、住民の方々が将来に不安を抱いている、といった現状を改めて確認しました。加えて、中山間地域においては、進学や就職を理由として、若者世代、特に女性の流出が進み、男女のバランスに偏りが生じることで、婚姻数や出生数も大幅に減少しており、人口減少がさらなる若者の流出や人口減少につながるという負の連鎖が加速しています。他方で、このような厳しい状況の中にあっても、本県の中山間地域には、地域を次の世代に引き継いでいくために頑張っている方々が多くいらっしゃいます。
- こうした住民の方々のお気持ちにお応えし、地域で頑張っている皆さんとともに未来を切り開いていくための道しるべとして、中山間地域が10年後に目指す将来像と、それを実現するための施策や数値目標などを盛り込んだ「高知県中山間地域再興ビジョン（以下「ビジョン」という。）」を策定するものです。

2 ビジョンの位置づけ

高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置づけられる計画

3 ビジョンの構成

ビジョンは、「①将来ビジョン」と「②アクションプラン」の大きく2つから構成する

①将来ビジョン

中山間地域の「10年後（R15年度）に目指す将来像」と、それが実現した「テーマごとの10年後の姿」を、具体的な数値目標とともに明記するもの

②アクションプラン

「①将来ビジョン」の実現に向けた4年間の行動計画であり、具体的な行動とKPI（成果を客観的に評価する指標）を明記するもの

4 計画期間

アクションプランの期間である4年間（令和6～令和9年度）を計画期間とする

5 対象地域

地域振興5法（※）の対象地域、全34市町村が該当（27市町村（全域）、7市町村（一部））

※ ① 過疎地域持続的発展支援特別措置法 ② 特定農山村法
③ 山村振興法 ④ 半島振興法 ⑤ 離島振興法

面積 (km ²)			人口 (人)		
県全体	中山間地域	割合	県全体	中山間地域	割合
7,104	6,627	93.3%	691,527	264,046	38.0%

* 令和3年度高知県集落調査より作成



Ⅱ 中山間地域の現状と課題

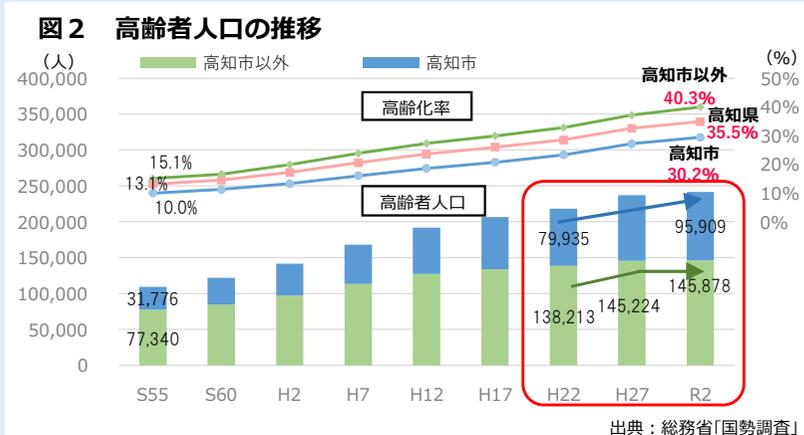
1 これまでの中山間対策

中山間地域では、県全体を上回るスピードで人口減少や高齢化が進み、多くの集落で、地域活動や産業の担い手不足、日常生活に必要な機能やサービスの低下が年々深刻化。

中山間地域の人口はS35以降減少が続いており、減少率は県全体を上回る。



高知市以外の高齢者数は近年横ばいとなっており、今後減少が見込まれるものの、人口減少により高齢化率は増加している。



このため、県では、平成24年度から中山間対策を抜本強化。さらに令和4年度からは、集落実態調査の結果を踏まえ、「地域住民が支え合い、暮らし続けることができる持続可能な中山間地域の実現」を目指して、3つの柱「柱1「暮らしを支える」「柱2「活力を生む」「柱3「しごと」を生み出す」で総合的な中山間対策を推進。

あわせて、「暮らし・活力・しごと」の面において、デジタル技術を積極的に活用し、中山間地域の課題解決や活性化を図る取り組みを推進。

「暮らし」「活力」「しごと」の3つの柱と8つの施策で中山間対策を推進!!

柱1 「暮らし」を支える

～暮らし続けられる環境づくり～

- I 生活環境づくり
- II 安全・安心の確保



柱2 「活力」を生む

～地域を支える活力の創出～

- III 集落活動センターの推進
- IV 小さな集落の活性化
- V 中山間の人づくり
- VI デジタル技術の活用



柱3 「しごと」を生み出す

～所得向上と雇用創出～

- VII 基幹産業の振興
- VIII 新たな生業、仕事づくり



1 これまでの中山間対策

主な取り組みと成果

主な取り組み	主な成果
<p>柱1「暮らし」を支える</p> <p>中山間地域で暮らし続けることができる生活環境をつくるため、飲料水や生活用品の確保、地域交通の維持・確保、鳥獣被害対策などを推進。</p> <p>また、中山間地域で健やかに安心して暮らしていくため、住民の身近な地域での支え合い、助け合いの仕組みづくりや、福祉サービスの充実による安全・安心の確保、地域医療体制の確保、地域防災力の強化などを推進。</p>	<p>○生活用水施設が県内390地区に整備され、飲用水を安定的に確保できる環境整備が進んだ。</p> <p>○鳥獣被害対策を推進し、R4の被害額はH24の3分の1以下にまで減少した。</p> <ul style="list-style-type: none">・生活用水施設の整備 390地区（R4年度末時点）・野生鳥獣被害額の減少 359,776千円（H24年度）→ 100,045千円（R4年度）・あったかふれあいセンターの整備力所数 346カ所（R4年度末時点、拠点及びサテライトを含む）・地域包括ケアシステムの推進協議体設置ブロック数 14ブロック（R●年度末時点） など <div data-bbox="1787 517 2179 882" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>棒グラフ (野生鳥獣被害額の推移) ・ H24~R4の被害額</p></div>
<p>柱2「活力」を生む</p> <p>集落活動の活性化の取り組みでは、地域住民が主役となり、近隣の集落同士が連携しながら、地域が抱える課題の解決や集落の維持・再生に向けた仕組みづくりなどを目指す集落活動センターの取り組みを推進。</p> <p>また、移住促進や地域の担い手となる地域おこし協力隊などの導入による県外からの人材確保や、農業や林業など各分野の様々な担い手の育成・確保に向けた取り組みを推進。</p>	<p>○地域の課題に対応する「集落活動センター」が県内66カ所に整備され、住民主体で日々の助け合いや地域資源を活用した経済活動などを行う仕組みができた。</p> <p>○移住促進や地域おこし協力隊確保の取り組みなどにより、R4年に人口が社会増となった市町村は13市町村となるなど、社会減の縮小への効果が現れている。</p> <ul style="list-style-type: none">・集落活動センターの開設数（R4年度末時点） 65カ所・県外からの移住者数（R4） 1,185組1,730人・地域おこし協力隊の人数（R4年度末） 230人 など <div data-bbox="1686 1222 2179 1489" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>棒グラフ（集落活動センター開設数の推移） ・ H24~R4の推移</p></div>

1 これまでの中山間対策

主な取り組みと成果

主な取り組み	主な成果
<p>柱3「しごと」を生み出す</p> <p>産業振興計画の取り組みを通じて、農業や林業などの中山間地域の基幹産業の振興を図るとともに、観光による交流人口の拡大や、地域の商業の活性化などに取り組む。</p> <p>また、中山間地域の特性を生かしたビジネスの創出や、特定地域づくり事業協同組合などによる多様な形態の仕事づくりを推進。</p>	<p>○近年はコロナ禍や物価高騰の影響が各分野に及ぶものの、産業振興計画の取り組みを通じて、地産外商は大きく前進。就業者一人あたりの産出額や各産業分野の生産額が増加するとともに、地域アクションプランの取り組みにより1,971人（平成21～令和4年度の累計）の雇用を創出。</p> <p>○産業の担い手確保と地域の人口増につながる特定地域づくり事業協同組合が県内2カ所で設立され、中山間地域の仕事を組み合わせて年間を通じた仕事を創出。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域アクションプランの取り組みによる雇用の創出数（H21～R4年度の累計） 1,971人 ・ 特定地域づくり事業協同組合の設立数（R4） 2カ所 など <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>棒グラフ 地域APによる雇用創出数 ・ H21～R4の実績</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>折れ線グラフ （販売農家一戸あたりの農業産出額等） ・ H24～R4の産出額</p> </div>
<p>「くらし・活力・しごと」におけるデジタル技術の活用</p> <p>情報通信環境の整備や高度化を進めるとともに、中山間地域の課題解決や活性化に向け、デジタル技術を活用した飲料水や生活用品、移動手段の効率的な確保のための仕組みづくりや、オンライン診療、遠隔授業などを推進。</p> <p>また、一次産業分野では、IOPプロジェクトなど、生産性の向上や省力化を図る取り組みをデジタル技術を活用して強かに推進。</p>	<p>○高速情報通信基盤が広く整備され、デジタル技術の活用により、中山間の地理的な条件不利性や人口減少・高齢化がもたらす様々な地域課題の解決に資する取り組みが大きく進展。</p> <p>○一次産業分野ではスマート農業やスマート林業など生産性向上や省力化を図る取り組みが大きく進んだほか、ヘルスケアモビリティの導入によるオンライン診療の取り組みや中山間の小規模高等学校等における遠隔授業もスタート。デジタル技術を活用して移動・輸送手段の確立や作業の負担軽減などの実証に取り組む市町村も増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 光ファイバ整備率（世帯ベース、県全体、R4） 99.53% ・ ヘルスケアモビリティ導入カ所数 2カ所 ・ 中山間の小規模高等学校等における遠隔授業・補習の実施校数 授業14校、補習18校 など <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>【R4：遠隔授業の実施校】 室戸、中芸、城山、嶺北、吾北分校、高岡、佐川、窪川、橋原、四万十、大方、西土佐分校、宿毛、清水</p> </div>

2 現状と課題

1 人口減少

- これまでの対策により多くの成果が得られた一方で、人口減少や少子高齢化には歯止めがかかっていない。
- また、将来生まれてくる子どもの親となる若者世代（特に女性）の流出が顕著。
- 若者の流出に伴い婚姻件数は減少。少子化がより進行し、人口はさらに減少。人口減少が、中山間地域の集落の活力低下や産業の衰退、暮らしの不便を招き、さらなる若者の流出や人口減少につながっていくという負の連鎖が加速しつつある。

令和3年度 高知県集落实態調査の結果

問 集落代表者から見た集落の課題：集落で困っていること（課題や悩み）

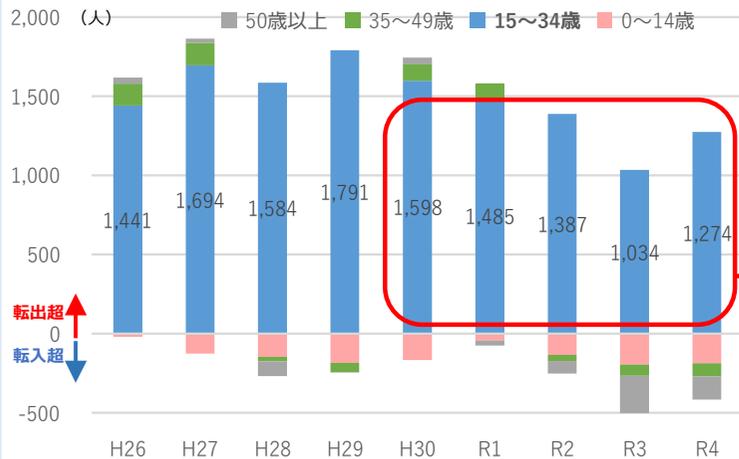
「人口減少」：68.8% 「地域に若者がいない」：55.2% 「集落活動の担い手不足」：45.5% 「集落長のなり手（リーダー）がいない」：35.4%

問 集落代表者から見た集落の課題：およそ10年後の集落の姿について

「集落全体で衰退していると思う」：67.2% 「このまま変わらない」：17.8% 「集落内の一部の地域（小集落）が消滅していると思う」：8.1%
 「集落全体が消滅していると思う」：4.8%

若者世代、特に女性の人口流出

図1 転出超過数の推移（高知市以外、年齢階級別）



高知市以外の転出超過数のほとんどが15歳から34歳の若者
 ※年平均1,476人（H26~R4）

➡ 進学や就職が主な要因

15~34歳の転出超過数の男女構成

	H30~R4計
総数 (a)	6,778
男	3,130
女 (b)	3,648
b/a	53.8%

高知市以外では女性の人口が男性に比べて大幅に少ない

表1 若者世代（15歳~34歳）の人口減少（H22~R2）

	高知市			高知市以外		
	R2人口 (15-34歳)	増減 (H22比)	減少率	R2人口 (15-34歳)	増減 (H22比)	減少率
男性	27,829	▲ 6,941	▲ 20.0	27,355	▲ 9,407	▲ 25.6
女性	28,972	▲ 8,666	▲ 23.0	23,654	▲ 9,219	▲ 28.0
男女計	56,801	▲ 15,607	▲ 21.6	51,009	▲ 18,626	▲ 26.7

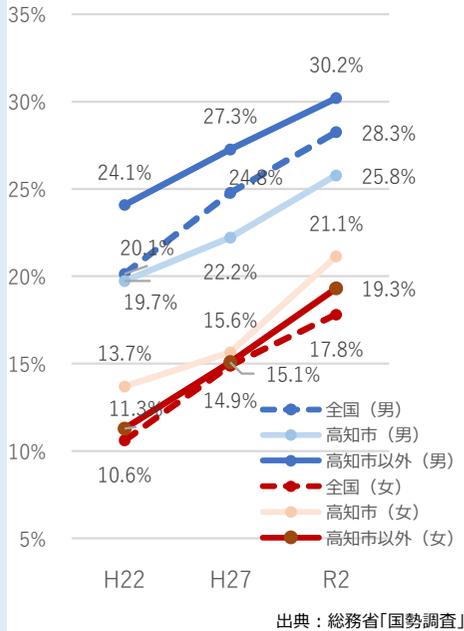
2 現状と課題

1 人口減少（続き）

未婚化の進展

高知市以外の50歳時未婚割合は男女ともに全国平均を上回る

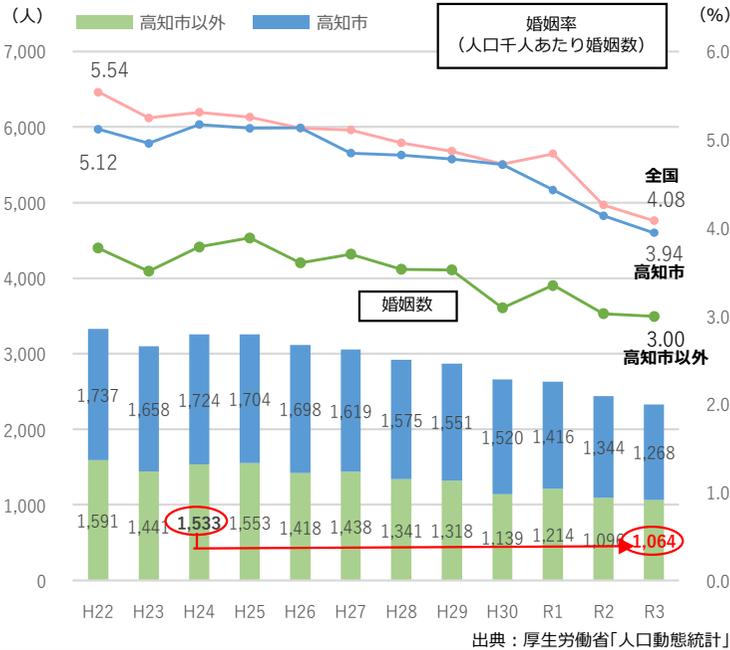
図2 50歳時未婚割合の推移



婚姻数の減少

高知市以外の婚姻数はこの10年間で3分の2程度に縮小

図3 婚姻数の推移

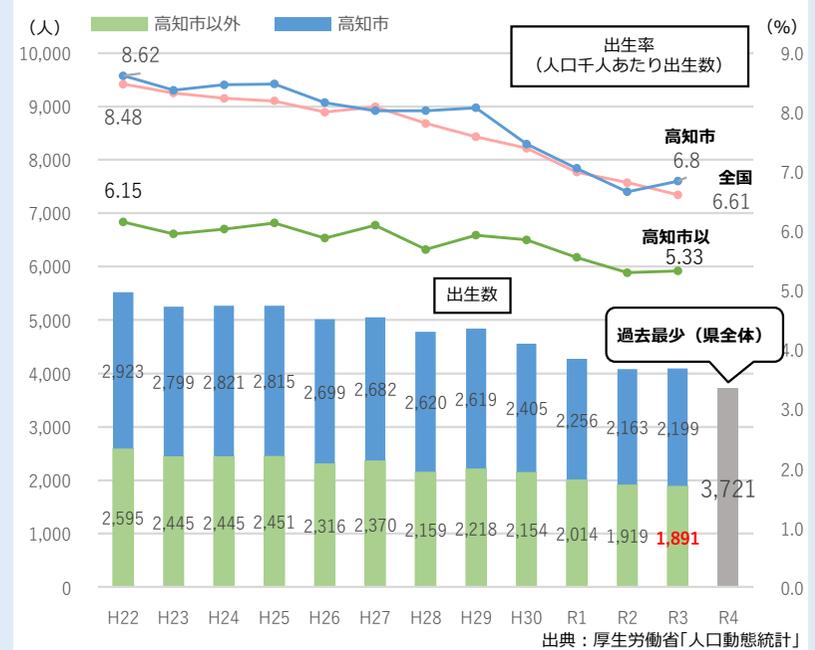


出生数の減少

女性の人口の減少、未婚化の進展、婚姻数の減少により、出生数は大幅に減少

※出生数30人以下市町村(R3)：20市町村

図4 出生数の推移



- この負の連鎖を断ち切るためには、Uターンを含む移住促進など、中山間地域に人を呼び込む施策に加え、中山間地域で就職する若者の増加を図ることなどによって定住を促進し、中山間地域の人口流出を抑える施策の強化が必要。
- あわせて、より多くの女性に地域に残り、あるいは戻ってきてもらえるよう、これまで男性中心とされてきた建設業や一次産業などの職場への女性の進出を後押しし、若い女性が生き生きと生活できる環境を整備するとともに、地域に根強く残る固定的な性別役割分担意識の解消に努めることが重要。
- 加えて、地域の若者の結婚や出産の希望を叶える施策や安心して子育てできる環境づくりを強化することにより、持続可能な人口構造への転換を実現させ、中山間地域に再び活力を取り戻すことが必要。

2 現状と課題

2 暮らし

- 中山間地域における買い物環境や移動手段の確保については、高齢化の進展によりそのニーズが高まる一方で、人口減少の進展に伴ってサービスの維持確保が困難になっていくことが懸念される。
- 鳥獣被害対策については、被害額は年々減少しているものの、依然として1億円を超える被害が発生。また、高齢化の進展等により、捕獲を行う狩猟者が年々減少。
- 医療、福祉分野においては、高知版地域包括ケアシステムの推進により、在宅での暮らしを希望する方が住み慣れた地域で暮らし続けるようにするための介護予防、在宅療養、認知症のそれぞれの取り組みが県内各地で実施されつつある。一方で、訪問診療・看護・介護のサービス量には地域偏在があり、施策間の連携が不十分な面も認められる。

表（県内の狩猟者数の推移）

・ H24~R4の推移

- 引き続き、デジタル技術の活用等により、中山間地域の暮らしを支える生活環境づくりや、多様なニーズに対応できる医療・福祉サービスの確保に取り組むことが必要。

3 地域の活力

- 集落活動センターが県内66カ所（R5.9月時点）に広がり、住民主体で地域の課題解決に取り組む仕組みづくりが進んだ一方、コロナ禍における地域活動の停滞等により、近年は新たな集落活動センターの立ち上げが頭打ち。
- 人口減少や少子高齢化の進展により、産業や地域の担い手不足は一層深刻化。リーダーや後継者の不在により、集落活動の維持や、地域の伝統的な祭りや民俗芸能の継承が困難となる集落も現れる。

円グラフ（R3集落実態調査）

別表1問6（後継者の有無）

・ H23、R3の比較

- 集落活動の活性化に向けて、センターの新規開設や取り組み継続への支援を強化するとともに、関係人口の創出や世代間交流の促進に取り組むことが必要。
- 地域の誇りであり、活力の象徴である伝統的な祭りや民俗芸能を次世代に引き継ぐため、担い手の育成・確保や文化の保存・継承の取り組み等への支援を強化することが必要。

2 現状と課題

4 しごと

- 産業振興計画の取り組みを通じて、各産業分野における高付加価値化や省力化・効率化を推進し、就業者一人あたりの産出額等が増加。
- 一方で、人口減少に伴う産業の担い手不足やコロナ禍の影響等により、産業振興計画の取り組みによる雇用創出は、第4期計画（R2～5、4年間）の目標（4千人）の達成は厳しい状況。
- 中山間地域には若者や女性が魅力を感じる仕事が少なく、若者流出の一因になっている。

棒グラフ（県内の農業就業人口）

・ H24～R4の推移



- 一次産業や建設業などにおけるデジタル技術の導入等により生産性の向上や省力化を図り、女性の進出を後押しする環境を整備するとともに、若年層の収入拡大につなげることが必要。
- 起業や事業承継を一層促進すること等により、若者が魅力を感じ、地元で就業しやすい環境を整備することが必要。

5 デジタル技術の活用

- 山間部や離島などの条件不利地域においては、採算性や立地条件の制約などから、光ファイバなどのブロードバンドが整備されていない地域が存在。
- デジタル技術を活用した飲料水や生活用品、移動手段の効率的な確保のための仕組みづくり、オンライン診療などの先行的な取り組みは、一部地域での実施にとどまっている。



- 引き続き、ブロードバンド未整備地域の解消に取り組むとともに、無線ブロードバンドなどの方法による整備も検討していく。
- あわせて、デジタル技術を活用した各分野の取り組みの横展開を加速することなどにより、地理的な条件不利性がもたらす様々な課題を克服していくことが必要。

Ⅲ 新たな中山間対策

～中山間地域再興ビジョンの推進～

1 基本的な考え方

○県土の9割を占め、県民の4割が暮らす中山間地域の再興なくして県勢浮揚はなし得ない。

○この考えのもと、「中山間地域再興ビジョン」において、中山間地域を再興し、人口を維持、早期反転、安定化させることで、県全体の人口構造を下支えし、もって県土の持続的な発展を目指す。

○そのためには、県と市町村が連携し、中山間地域の若者と子どもの人口のこれ以上の減少を食い止め、増加に転じさせることで、人口の若返りを図り、持続可能な人口構造へと転換することが何よりも重要であることから、ビジョンの目指す姿の中心に「若者の人口増加」を掲げ、少子化対策と一体となった新たな中山間対策を推進する。

※進学や就職、結婚、出産はそれぞれの自由な意思決定に基づくことであり、多様な価値観や考え方が尊重されるべきであることを前提として、若者のこれらの希望が叶えられる高知県を目指す。

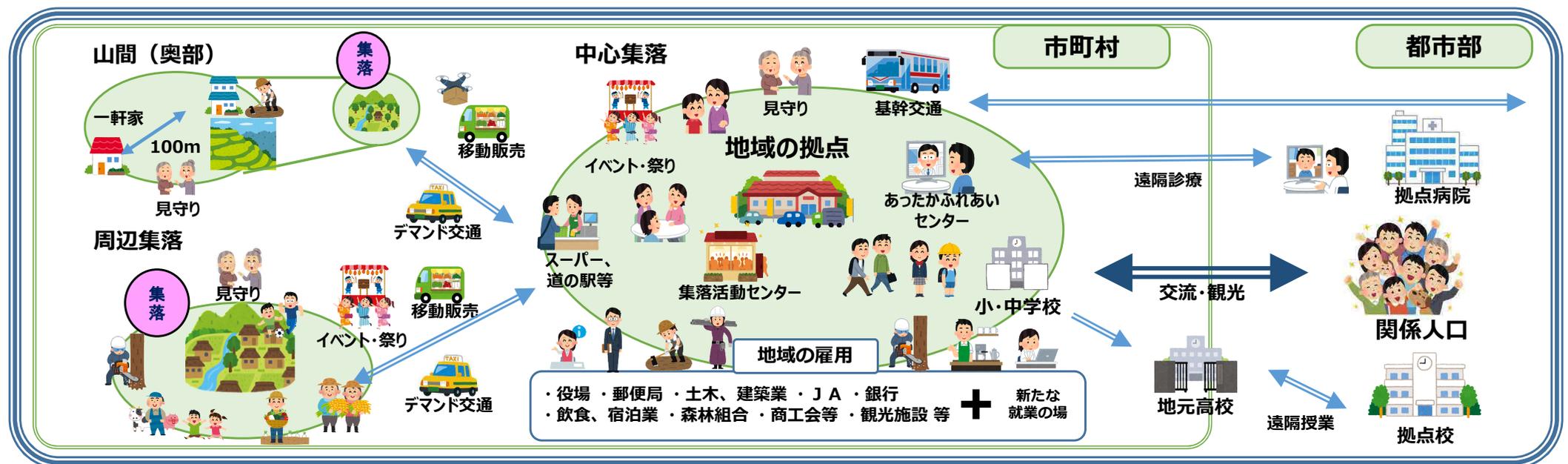
2 10年後の将来ビジョン

(1) 10年後に目指す将来像

「Ⅱ 2 現状と課題」や「Ⅲ 1 基本的な考え方」などを踏まえ、目指す将来像を次のとおりとします。

地域に若者が増えた持続可能な人口構造のもと、デジタル技術の活用などにより、地域で安心して生活ができる環境が維持され、地域に多様な仕事があり、誰もが将来に希望を持って暮らし続けることができる、活力ある中山間地域

10年後のイメージ



2 10年後の将来ビジョン

(2) 挑戦すべき重要な目標

「(1) 10年後に目指す将来像」を実現するための目指すべき重要な目標として、次の目標を設定します。

令和15年までに、**中山間地域のすべての市町村において**

- ①**若者のうち、減少、流出の著しい34歳以下の人口について、令和4年よりも増加を目指す**
- ②**出生数について、令和4年よりも増加を目指す**

(3) テーマごとの10年後の姿と数値目標

10年後に目指す将来像を実現するため、「若者を増やす」「暮らしを支える」「活力を生む」「しごとを生み出す」の4つの施策の柱と、これらに共通する「デジタル技術の活用」の横串的な施策を加えた5つのテーマごとに、10年後に達成すべき姿と数値目標を掲げて取り組みを推進。

柱1 若者を増やす

第1策 若者の定着・増加と人づくり

県外からの移住や地元での定住により若者、特に女性が増加し、産業や地域活動等の担い手として活躍している。多くの子ども達が、地元で学びながら地域と関わり、郷土への誇りと愛着が育まれている。



〈数値目標（10年後）〉

- 県外からの年間移住者数（※）：5,000人以上（R4：1,185組、1,730人）
- 地元高校への進学率：50%（R5年度入学31.3%）
- 県内就職率（※）
：高校生75%、専門学校生80%、県内大学生42%、
県外大学生28%
R4.3卒業実績：高校生71.7%、専門学校生71.5%、
県内大学生34.1%、県外大学生19.6%
- すべての市町村で、20～34歳の年齢層における女性の割合が
R2全国平均（49%）を上回る
- 婚姻件数の増加（R3：1,072組）

（※）付きの数値目標については、達成度の評価にあたって県全体の数値を使用する。

2 10年後の将来ビジョン

(3) テーマごとの10年後の姿と数値目標

柱2 暮らしを支える

第2策 生活環境づくり

生活用水や生活用品、移動手段等、暮らし続けるために必要となる生活環境が維持されている。

第3策 安全・安心の確保

地域での見守り機能が維持されるとともに、地理的条件が不利な地域においても、医療・福祉サービスへのアクセスが確保されている。また、地域の防災力が高まっている。

〈数値目標（10年後）〉

- 居住地における買い物手段の確保 100%
- 居住地における移動手段の確保 100%
- 居住地における医療の提供 100%
- 居住地における在宅介護サービスの提供 100%

柱3 活力を生む

第4策 集落の活性化

集落活動センターや「小さな集落」等、住民主体の組織が中心となり、多様な人材が交流しながら集落の活性化に向けた取り組みが行われている。

第5策 地域の伝統的な祭りや民俗芸能の維持・継承・活用

地域の伝統的な祭りや民俗芸能が継続して催され、地域が賑わい、次世代へ引き継がれている。

〈数値目標（10年後）〉

- 集落活動センター開設数：
95カ所（R5.6月末時点 66カ所）
- 活動を継続している無形民俗文化財（国・
県・市町村指定）の数：120件（R4年度：95件）
- 世界無形文化遺産の登録数：
11件（風流踊、神楽）（R4末：0件）

柱4 しごとを生み出す

第6策 基幹産業の振興と地域の資源を活用した付加価値の高い産業の創出

農林水産業等の生産性向上が図られ、若者が新たな担い手として活躍している。また、地域の食・自然・文化を生かした付加価値の高い産業が展開され、若者の雇用が生まれている。

第7策 起業等による仕事の創出

移住者や地域の若者等の起業や継業により、地域の魅力や活力が高まっている。また、IT・コンテンツ関連企業等の立地や、都市部から移住しリモートワークをする若者が増えている。

〈数値目標（10年後）〉

- 就業人口（15～64歳）の増加
（R2：129,591人）
- 女性就業者数（20～34歳）の増加
（R2：12,348人）
- 起業件数の増加（R2：262件※）
※ 起業を含む開設事業所数

横串

第8策 デジタル技術の活用

中山間地域のニーズに合った通信環境が整備され、日常生活の不便さや担い手不足等、中山間地域の様々な課題を解決するためにデジタル技術の活用が進んでいる。

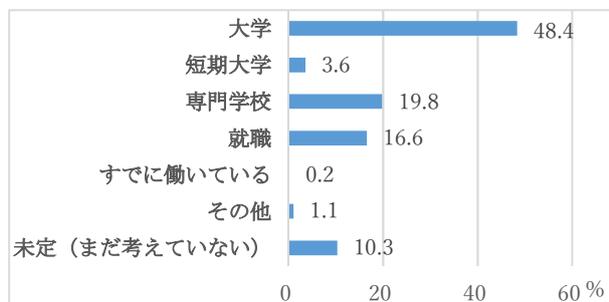
〈数値目標（10年後）〉

- 居住地等におけるブロードバンド整備率：
100%（R4末：99.13%）

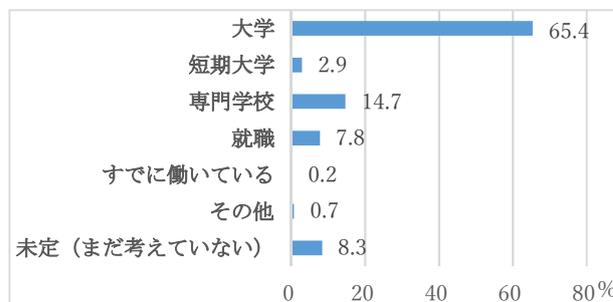
高校卒業後の進路に関するアンケート結果

1. 全日制・定時制昼間部

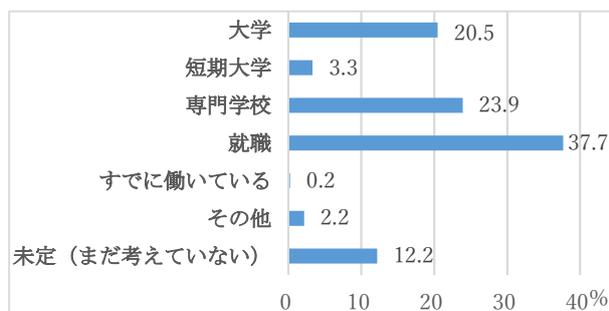
【全体】



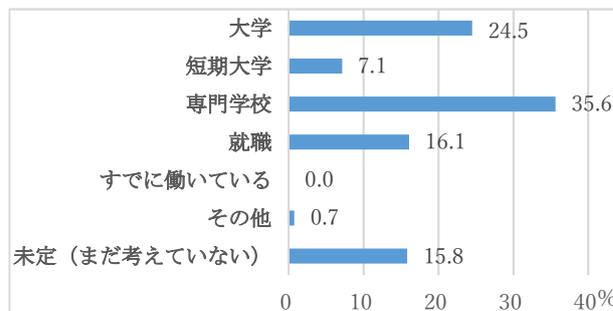
【普通科系】



【産業系専門学科】



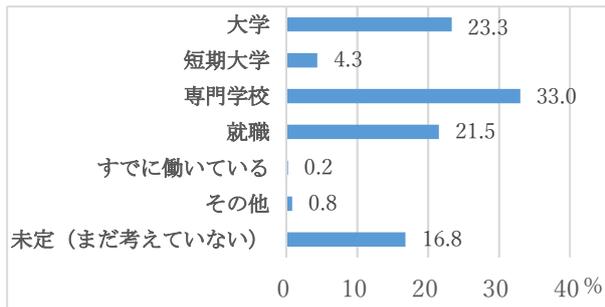
【総合学科】



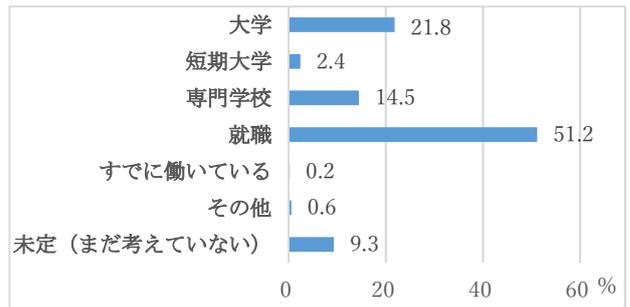
普通科系へ進学した生徒は、大学等へ進学を希望する人が多い。産業系専門学科へ進学した生徒についても、およそ半数が大学・専門学校等へ進学を希望している。総合学科は、専門学校への進学希望が最も多く、上級学校への進学希望者が7割近くになっている。

どの学科でも進学希望が多くなっており、高校卒業で就職を希望する生徒は、産業系専門学科においても少なくなっている。

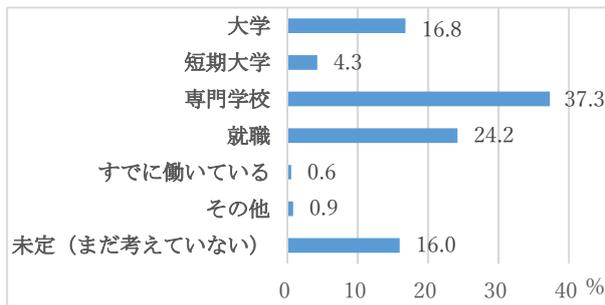
【農業科】



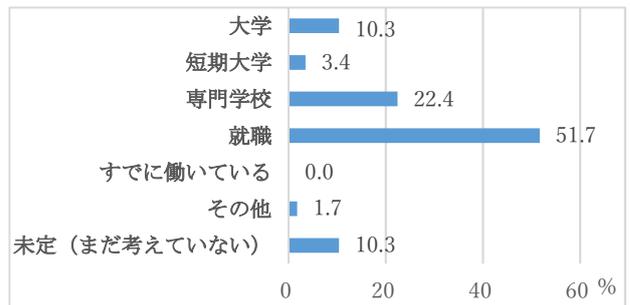
【工業科】



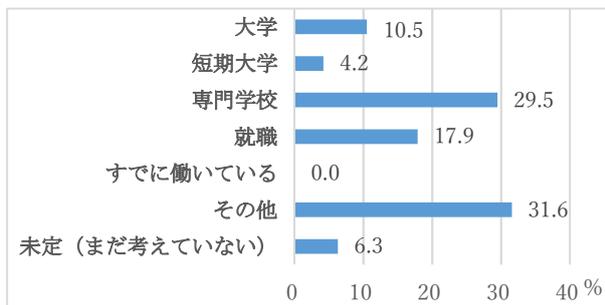
【商業科】



【水産科】



【看護科】



工業科や水産科は就職希望が半数を超えている。農業科や商業科の約6割が上級学校に進学を希望している。また、看護科にその他や専門学校が多いのは、資格を取るために専攻科等に進学するためと考えられる。

アンケート 将来就きたい仕事

将来就きたい仕事の一覧(%) (上位2項目を網掛け)

	全体	普通科系	産業系	総合学科	農	工	商	水	看
自然に関すること	4.4	4.0	5.8	3.9	13.0	2.2	3.1	31.0	0.0
科学技術・ものづくり	11.8	7.6	24.6	6.1	4.0	43.3	8.5	8.6	1.1
アート・表現	9.2	9.6	8.6	8.8	7.9	8.7	12.0	1.7	2.1
スポーツ系	3.3	3.6	2.5	3.4	3.4	2.3	2.8	0.0	0.0
旅・思い出・乗り物	3.0	3.3	2.2	3.0	1.6	1.5	4.8	8.6	0.0
ファッション・ビューティー	4.2	3.3	5.0	7.3	7.7	1.4	11.7	1.7	6.3
飲食・調理	5.2	4.1	6.1	8.3	18.2	1.5	2.8	10.3	1.1
住まい・街づくり	4.1	2.6	9.5	0.7	4.5	15.7	1.4	3.4	1.1
医療・福祉	16.0	17.8	10.1	19.1	12.1	3.8	9.7	3.4	73.7
教育	11.0	13.5	4.7	11.5	8.7	2.2	8.0	0.0	2.1
行政・法律・国際関係	12.1	14.7	7.4	8.8	5.9	8.3	8.5	5.2	2.1
金融・ビジネス	4.6	5.4	2.8	4.9	1.6	1.7	8.0	0.0	3.2
その他	11.1	10.5	10.7	14.2	11.5	7.1	18.5	25.9	7.4

普通科系は「医療・福祉」と「行政・法律・国際関係」の仕事に就きたい人が多い。産業系専門学科では、各小学科に関連する仕事を選んでいる人が多い。総合学科は「医療・福祉」や「教育」が多くなっている。

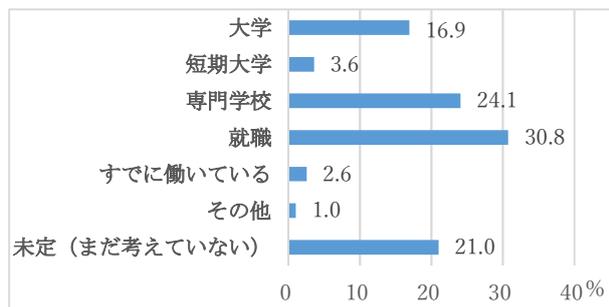
高校卒業後に就職を選択した生徒の中で、将来就きたい仕事の一覧(%) (上位2項目を網掛け)

	全体	普通科系	産業系	総合学科	農	工	商	水	看
自然に関すること	4.5	5.3	4.5	2.3	12.8	2.3	1.2	26.7	0.0
科学技術・ものづくり	26.6	7.2	40.1	8.6	6.4	55.7	4.7	10.0	0.0
アート・表現	6.0	7.2	4.7	9.2	13.8	2.5	7.1	3.3	5.9
スポーツ系	2.4	3.2	1.7	4.0	1.8	1.3	4.7	0.0	0.0
旅・思い出・乗り物	2.7	4.3	1.9	2.9	2.8	1.3	5.9	0.0	0.0
ファッション・ビューティー	1.4	1.1	0.8	4.6	0.9	0.2	4.7	0.0	0.0
飲食・調理	5.6	5.6	3.8	13.8	13.8	1.7	2.4	10.0	0.0
住まい・街づくり	9.8	4.8	14.1	1.7	11.0	17.0	5.9	6.7	0.0
医療・福祉	3.2	3.7	2.3	5.7	2.8	0.0	0.0	6.7	76.5
教育	0.8	1.1	0.8	0.0	0.9	0.4	3.5	0.0	0.0
行政・法律・国際関係	18.4	34.5	10.6	17.8	11.9	10.2	14.1	6.7	5.9
金融・ビジネス	5.5	8.0	3.5	8.6	3.7	1.5	16.5	0.0	5.9
その他	13.2	13.9	11.2	20.7	17.4	6.0	29.4	30.0	5.9

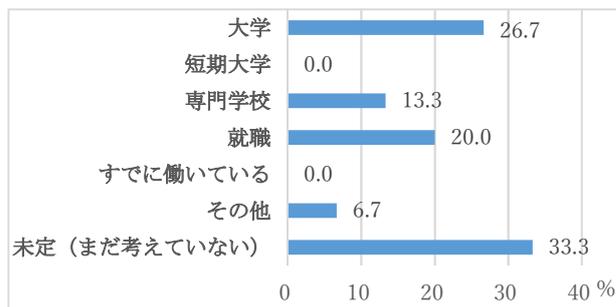
普通科系は、「行政・法律・国際関係」や「金融・ビジネス」の仕事に就きたい人が多い。産業系専門学科は、各小学科に関連する仕事内容を選んでいる人が多い。しかし、農業科は「アート・表現」の仕事に就きたい人が多く、学科の内容に関連しない仕事を選んでいる人がいる。

2. 定時制（夜間）・通信制

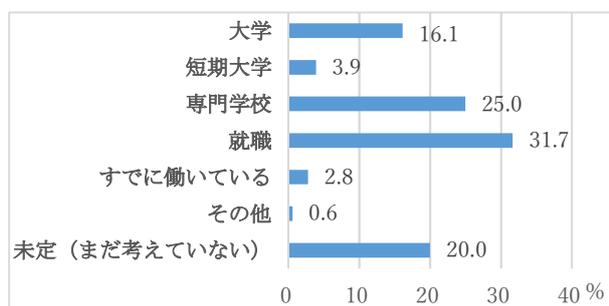
【定時制（夜間）】



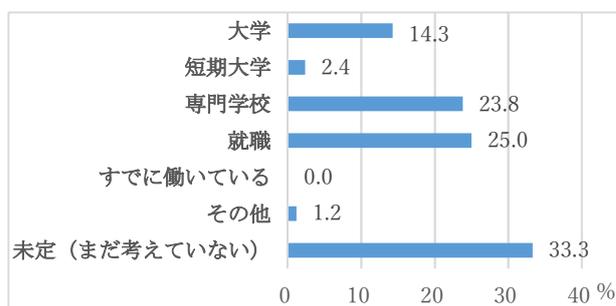
【工業科】



【普通科】



【通信制】



定時制夜間の工業科は未定者が多く、次に大学進学希望者が多くなっており、就職よりも上級学校への進学を希望する傾向にある。普通科は工業科よりも就職希望者の割合が高いが、上級学校への進学希望者も半分近くになっており、全日制とは異なる結果になっている。

通信制は未定者の割合が最も多く、上級学校への進学希望者が約4割となっている。

5(1) 学校教育におけるSTEAM教育等の教科等横断的な学習の推進

- AIやIoTなどの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められている。
- 学習指導要領においては、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するため、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることとされている。

STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進することが重要

文理の枠を超えたカリキュラム・マネジメントの充実

- ・ 生徒・学校・地域等の実態を踏まえ、スクール・ポリシーに基づき文理の枠を超えた教科等横断的な視点で教育課程を編成・実施
- ・ スクール・ポリシーと総合的な探究の時間等の目標との関連を図る
- ・ 各教科の教師の専門性を生かした協働体制を構築
- ・ 教師の負担を軽減しつつ学校外リソースを活用するための連携体制を整備
- ・ ICTを活用した学習を積極的に推進

教育委員会等による支援の充実

- ・ 各学校の多様な実態を踏まえながら、スクール・ミッションに基づきカリキュラム・マネジメントを支援
- ・ ICTを活用した学習を推進するとともに、産業界や高等教育機関、社会教育施設、地域の団体等と連携し、各学校と外部の人材やコンテンツ等のリソースのマッチングを通じて社会に開かれた教育課程の実現を促進

各教科等における探究的な学習活動の充実

- ・ 各教科等の目標の実現に向け、その特質に応じた見方・考え方を働かせながら、文理の枠を超えて実社会の課題を取り扱う探究的な学習活動を充実



総合的な探究の時間、理数探究等を中心とした探究活動の充実

- ・ 複数の教科等の見方・考え方を総合的・統合的に働かせながら、文理の枠を超えて実社会の課題を取り扱い探究する活動を充実
- ・ 試行錯誤しながら新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を育成

理学、工学、芸術、人文・社会科学等を横断した学際的なアプローチで実社会の問題を発見し解決策を考えることを通じた主体的・対話的で深い学びの実現

- ✓ 知的好奇心や探究心を引き出すとともに学習の意義の実感により学習意欲を向上
- ✓ 文理の枠を超えた複合的な課題を解決し新たな価値を創造するための資質・能力を育成
- ✓ 高等学校等における多様な実態を踏まえた探究的な学習活動を充実

STEAMの各分野が複雑に関係する現代社会に生きる市民、新たな価値を創造し社会の創り手となる人材として必要な資質・能力の育成

自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる（学習指導要領前文）